

和仏法律学校講義録

著者	富井 政章, 掛下 重次郎, 松岡 義正, 岡 實
出版者	和佛法律學校
巻	3-20
ページ	1-55
発行年	1902-08-30
URL	http://hdl.handle.net/10114/5369

(明治三十四年十一月十四日第三種郵便認可 第二回)
明治三十五年八月三十日發行

三十五年度 第二學年

和佛法律學校講義錄



和佛法律學校發行

第貳拾號



第三學年第二十號目次

民法物權 自第七章(自三三)至第十章(至三四)

法學博士 富井 政章

民法相續 (自三九三)至(至四三)

法律學士 掛下重次郎

民事訴訟法 自第六編(自六七)至第八編(至七〇)

法學士 松岡 義正

行政法 (自四一九)至(至四七四)

法學士 岡 實

雜報 ○破産法○手形ノ交付ト振出地

コトヲ妨グナイ第三七四條

茲ニ所謂利息トハ約定利息ノミヲ謂フモノデアラテ、債務ノ不履行ニ原因セル損害賠償ノ性質ヲ有スル遲延利息ニハ適用ナキモノト解シマス、然ルニ此點ニ關シテハ曩ニ解釋ガ歧レテ大議論ヲ生ジマシタ、結局大審院ハ今述ベタ狹義ニ解スル說ヲ採ラテ、遲延利息ヲ含マズト云フ判決ヲ下シタ、然ルニ立法問題トシテハ是ハ法律ノ一缺點ト謂ハテバナラス、從來ノ慣習ニ反スルコトデモアリ又質權ニ於ケルト規定ヲ異ニスベキ理由ハ更ニナイ(第三四六條其レ故ニ世間ニハ此點ニ於テ民法ニ修正ヲ加フル議ガ起テ、竟ニ明治三十四年四月十二日法律第三十六號ヲ以テ本條ノ規定ヲ遲延利息ニモ適用スルコトヲ明定セラレマシタ、微細ナル點ハ説明ヲ略シマス

第三款 抵當權ノ處分

抵當權ハ從タル權利デアルガ故ニ一見スルトキハ其擔保スル主タル債權ヲ離レテ存在スルコトヲ得ザルモノノ如クニ解セラルル、即チ單獨ニ抵當權ノミヲ

民法物權 抵當權 抵當權ノ效力

090
1902
3-1-20

第三學年第二十號目次

民法 物權 自第七章
至第十章 (三三三)

法學博士 富井 政章

民法 相續 (三三三)

法學士 掛下 重次郎

民事訴訟法 自第六編
至第八編 (三七〇)

法學士 松岡 義正

行政 法 (四七九)

法學士 岡 實

雜報 ○破産法○手形ノ交付ト振出地

090
1902
3-1-20

コトヲ妨ゲナイ第三七四條
茲ニ所謂利息トハ約定利息ノミヲ謂フモノデアラバ債務ノ不履行ニ原因セル損害賠償ノ性質ヲ有スル遲延利息ニハ適用ナキモノト解シマス然ルニ此點ニ關シテハ疑ニ解釋ガ岐レテ大議論ヲ生ジマシタ結局大審院ハ今述ベテ裁斷ニ解スル説ヲ採ラテ遲延利息ヲ含マズト云フ判決ヲ下シタ然ルニ立法問題トシテハ是ハ法律ノ一缺點ト謂ハチバナラス從來ノ慣習ニ反スルコトデモアリ又實權ニ於ケルト規定ヲ異ニスベキ理由ハ更ニナイ(第三四六條其レ故ニ世間ニハ此點ニ於テ民法ニ修正ヲ加フル議ガ起テ竟ニ明治三十四年四月十二日法律第三十六號ヲ以テ本條ノ規定ヲ遲延利息ニモ適用スルコトヲ明定セラレマシタ微細ナル點ハ説明ヲ略シマス

第三款 抵當權ノ處分

抵當權ハ從タル權利デアラガ故ニ一見スルトキハ其擔保スル主タル債權ヲ離レテ存在スルコトヲ得ザルモノノ如クニ解セラルル即チ單獨ニ抵當權ノミヲ

民法物權 抵當權ノ效力

處分スルコトハ無効ナル如クニ思ハルル純理上ヨリ言ヘバ此見解ハ誠ハ適當ナルカモ知レヌガ此ノ如クナルトキハ實際上甚ダ不便デアル抵當權ハ先取特權ト異ナラバ債權ノ性質ニ基イテ當然之ニ附著スルモノトシタ權利デナイ其レ故ニ何人ニモ損害ヲ生ゼザル限ハ債權ヨリ分離シテ單獨ニ之ヲ處分スルコトヲ得セシムルニ何等ノ不都合モナイコトデアル當事者ニ於テハ多クノ場合ニ於テハ之ヲ便利トスルコトデアル故ニ民法ハ第三百七十五條ニ於テ抵當權ノ處分ヲ認メテ之ニ關スル規定ヲ置イタ抵當權ノ處分ニハ四ツノ場合ガアル第一 抵當權ハ先ツ之ヲ以テ他ノ債權ノ擔保ト爲スコトヲ得ル一例ヲ舉グレバ茲ニ甲ナル者ガ乙ナル者ニ對シテ一萬圓ノ債權ヲ有スルモノトシテ居ル其擔保トシテ抵當權ヲ設定セシメタ然ルニ甲ハ後ニ至ラフ金錢ノ必要アラフナル者ヨリ借入レント欲スルモ抵當トスベキ不動産ガナイ斯ル場合ニハ乙ニ對シテ有スル抵當權ヲ以テ更ニ丙ニ對シテ負ハントスル債務ノ擔保ト爲スコトヲ得ル但此場合ニ付イテ注意スベキコトハ何人ト雖モ自己ノ有スル以上ノ權利ヲ他人ニ移スコトヲ得ザルニ由ラ縦令甲ガ丙ニ對シテ己ガ乙ニ對シテ有ス

ル債權額以上ノ債務ヲ負フモ例ヘバ二萬圓ノ債務ヲ負フモ丙ハ其抵當權ニ依テ初ヨリ擔保スル債權額ヲ限度トスルニ非ザレバ之ヲ實行スルコトヲ得ナイ又蓋ニ債權質ニ付イテ違ベタ如ク自己ノ權利ガ辨濟期ニ至ルマデハ抵當權ヲ實行スルコトヲ得ザルハ言フヲ埃タザルコトデアル第二 抵當權ノ讓渡即チ抵當權者ハ同一ノ債務者ニ對スル他ノ債權者ニ其債權ノ擔保トシテ自己ノ抵當權ヲ讓渡スコトヲ得ル是ハ極メテ簡單ナル場合デアラ別ニ難問ヲ生ズルコトハナイ即チ甲債權者ガ乙債權者ニ抵當權ヲ讓渡シタトスレバ甲ハ將來無擔保ノ債權者ト爲ラ乙ガ其抵當權ニ依テ辨濟ヲ受タルコトト爲ル譯デアル第三 抵當權ノ拋棄即チ抵當權者ハ同一ノ債務者ニ對スル他ノ債權者ノ爲メニ其抵當權ヲ拋棄スルコトヲ得ル例ヘバ茲ニ甲乙丙ナル三人ガ丁ナル者ニ對シテ各一萬圓ノ債權ヲ有スルト假定シマセウ而シテ甲一人ガ抵當權ヲ有レタ居ル而シテ其抵當權ノ目的タル不動産ノ價格ハ丁度一萬圓デアルト假定シマセウ此場合ニ甲ハ乙ノ爲メニ其抵當權ヲ拋棄シタトスレバ乙ハ如何ナル地

位ニ立ツカト云フニ畢竟甲ガ嘗テ抵當權ヲ有セザルモノト看做スコトヲ得ル結果ニ爲ル、恰モ一萬圓ノ財産ヲ有スル債務者ニ對シテ一萬圓宛メ債權ヲ有スル無擔保ノ債權者ガ三人アル場合ト同様ニ爲ル譯デアアル、即チ各、其債權額一萬圓ノ三分ノ一ヲ受タルコトト爲ル、但甲ハ乙ノ利益ノ爲メニ其抵當權ヲ拋棄シタモノデアアルガ故ニ丙ニ其利益ガ及ンデハナラヌ、其レ故ニ此場合ニ甲ハ一萬圓ノ三分ノ二ヲ取ルコトト爲ル譯デアアル、乙ノ爲メニ抵當權ヲ拋棄シタ結果乙ハ本來一錢ダモ取ルコトヲ得ザリシニ換ヘテ三分ノ一ニ當ル辨濟ヲ受タルコトヲ得ル結果ト爲ルノデアアル

第四 順位ノ讓渡、即チ抵當權者ハ同一ノ債務者ニ對スル他ノ債權者ノ爲メニ其抵當權ノ順位ノミヲ讓渡スコトヲ得ル、此場合ニ於テハ讓渡人ハ言フマデモナク讓受人モ無擔保ノ債權者デナクシテ抵當權者デアアル、唯讓渡人ヨリ下位ニ居ル抵當權者デアアル之ガ前ニ述べタ抵當權ノ讓渡ト相異ナル點デアアラヌ、例ヲ以テ言ヘバ茲ニ甲乙ノ兩人各、丙ニ對シテ一萬圓ノ債權ヲ有シテ居ル、甲ハ第一順位者デアラ乙ハ第二順位者デアアル、而シテ抵當不動産ノ價格一萬五千圓

ヲ利用シテ私利ヲ圖ルコトヲ往往見ル所ニシテ法律ハ此弊害ヲ豫防スル爲メニ後見ニ關シテ種種ノ規定ヲ設ケタリ例ヘバ後見人ハ後見中ハ勿論其任務カ終了シタル後未タ管理ノ計算ヲ終ラサル間ハ被後見人ヲ養子ト爲スコトヲ得ヌ第八四〇條後見ノ計算終了前ニ未成年者被後見人ト後見人又ハ其相續人トノ間ニ爲シタル契約ハ未成年者ニ於テ取消スコトヲ得ヘク又其者カ後見人又ハ其相續人ニ對シテ爲シタル單獨行爲モ亦取消スコトヲ得ルモノト爲シ(第九三九條)後見人カ被後見人ノ財産又ハ被後見人ニ對スル第三者ノ權利ヲ讓受ケタルトキハ被後見人ハ之ヲ取消スコトヲ得第九三〇條又後見人ハ親族會ノ同意ヲ得ルニ非サレバ被後見人ノ財産ヲ賃借スルコトヲ得サルモノ(第九三一條)ト爲スカ如キハ皆後見人カ其地位ヲ利用セントスルヨリ生スル弊害豫防ニ外ナラサルモノニシテ此立法ノ本旨ヲ全カラシムルニハ被後見人カ後見人ノ利益ノ爲メニスル遺言ヲシテ無効タラシメサルヘカラス而シテ以上ノ弊害ハ當ニ被後見人カ後見人ニ對シテ爲シタル遺言ニ止マラス後見人ハ其地位ヲ利用シテ其配偶者若クハ其直系卑屬ノ利益ノ爲メ被後見人ヲシテ遺言ヲ爲

ナシムルコトハ甚タ容易ニシテ實際上行ハルルコト多キ故ニ此等遺言ノ爲
 之ニ爲シタル遺言モ無効ト爲ササルハカラス而シテ或場合ニ於テ被後見人カ
 其地位ヲ利用シタルニ非スシテ被後見人カ進ミテ本條所掲タルカ如キ遺言ヲ
 爲スコトアルヘシト雖モ被後見人カ其地位ヲ利用シタルヤ否ヤハ極テ證明シ
 難キモノナレハ本法ニ於テハ彼此ノ場合ヲ區別スルコトナク寧ロ第一項ノ如
 ク斷然タル規定ヲ設ケ被後見人ノ遺言ヲ以テ無効ト爲シタリ。又佛國民法
 佛國民法第九〇九條其他外國多數ノ立法例ハ醫師僧侶教師看護人等ノ利益ヲ
 爲メニ爲シタル遺言モ被後見人ノ爲メニ爲シタル遺言ト同ク無効ト爲スト雖
 モ此ノ如キハ頗ル細密ニ失シテ適當ノ範圍ヲ指定シ難キヲ以テ本法ニ於テハ
 規定ノ範圍ヲ被後見人ト被後見人トノ關係ニ限定セリ。又其言ハ被後見人
 以上ノ規定ハ被後見人カ直系血族配偶者又ハ兄弟姉妹ナラサルトキハ例外
 スルモノニシテ被後見人カ被後見人ト右ノ如キ親族關係ヲ有スルトキハ例外
 ルモノト爲セリ蓋シ此等ノ者カ被後見人タルトキハ被後見人ト被後見人トノ間ハ
 相互ニ親愛スルノ情自然ニ存スルモノナレハ被後見人死亡ノ際自己ノ利益ヲ

圖ルカ如キコトハ稀ナルヘクシテ被後見人カ被後見人ノ利益タル遺言ヲ爲シタ
 ル場合ニ於テハ却テ被後見人カ自然ノ情愛ニ基キテ遺言ヲ爲シタルモノト謂
 フコトヲ得ヘケレハナリ若シ此等ノ者ニ對シテモ被後見人ノ爲シタル遺言ヲ
 無効ナリトスルトキハ不公平ノ結果ヲ生スルコトト爲ルヘシ何トナレハ以上
 ノ關係ヲ有スル者ハ遺言ニ因リテ利益ヲ受タヘキ正當ノ地位ニ在ル者ナルニ
 偶被後見人タルカ故ニ此利益ヲ受タルコトヲ得サルニ至レハナリ故ニ以上ノ者
 ハ第一項ノ規定ノ除外例ト爲シタルナリ。又自書ニ對シテも同様ニ示

第二節 遺言ノ方式

法律カ遺言ヲ要式行爲ト爲シタル所以ハ據ニ叙述シタリ而シテ其方式ヲ二種

ニ分テタリ即チ(一)普通方式ハ通常ノ場合ニ於テ要スルモノ(二)特別方式ハ特別

第一款 普通方式

○普通方式ノ種類——第千六十七條 遺言ハ自筆證書公正證書又ハ秘密證書ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ要ス但特別方式ニ依ルコトヲ許ス場合ハ此限ニ在ラズ(舊民法財産取得編第三六八條第一項)

法律ハ普通ノ場合ニ於テ遺言ヲ爲スニハ必スヤ三箇ノ方式中ノ一ニ依ラサルベカラサルモノト爲セリ其三箇ノ方式トハ(一)自筆證書(二)公正證書(三)秘密證書是ナリ

(一) 自筆證書(testament olographe)トハ遺言者カ全部自筆ニテ遺言ニ關スル意思表示ヲ爲シタルモノヲ謂フ此證書ハ健康ニシテ自身ニ證書ヲ作ルニ困難ナラサル者多ク之ヲ用フヘシ而シテ此證書ヲ作ルニ付キ要スル條件ハ次條ニ規定セリ

(二) 公正證書(testament authentique)トハ公證人ヲ作成スル證書ニシテ無筆者重病者等自ラ證書ヲ作ルコト能ハス又ハ之ヲ作ルニ付キ困難ヲ感スル者又ハ自ラ證書ヲ作ルコト容易ナルモ自筆證書ニテハ他日偽造變造タルベキコトヲ恐ル者此證書ニ依リテ遺言ヲ爲スヘシ而シテ遺言ヲ爲スニ付キ公正證書ヲ以テスル場合ニ要スル條件ハ第千六十九條ニ規定セリ

(三) 秘密證書(testament mystique)トハ自筆證書ノ如ク全文遺言者ノ自筆ヲ要セスシテ遺言者ハ唯署名捺印スレバ足ルモノニシテ署名捺印ヲ爲スニ付テハ困難ヲ感セスト雖モ他人ヲシテ證書ノ文言ヲ書カシムルヲ便利トスル者之ヲ用フヘシ此證書ニ要スル條件ハ第千七十條ニ規定セリ

普通ノ場合ニ於ケル遺言カ若シ以上舉ケタル三箇ノ中孰レカ一ノ證書ニ依ラサルトキハ法律カ命シタル方式ニ依ラサルモノナルカ故ニ遺言トシテ效力ヲ生セサルモノトス但特別ノ場合ニ於ケル特別ノ方式ニ從ヒタルモノハ例外タルナリ

○自筆證書ニ要スル方式——第千六十八條 自筆證書ニ依リテ遺言ヲ爲スニハ遺言者其全文日附及ヒ氏名ヲ自書シ之ニ捺印スルコトヲ要ス

大自筆證書中ノ挿入削除其他ノ變更ハ遺言者其場所ヲ指示シ之ヲ變更シタル旨ヲ附記シテ特ニ之ニ署名シ且其變更ノ場所ニ捺印スルニ非サレバ其效ナシ(舊民法財産取得編第三六九條)

自筆證書ニ依ル遺言カ有效ナルニハ左ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス

第一 遺言者カ遺言ハ全文、日附、及ビ氏名ヲ自書スルコト。此遺言書ハ遺言者以外ノ者カ一字一句ニテ記載スルコトヲ得スシテ全文遺言者ノ自書タラサルヘカラス蓋シ法律カ全文遺言者ノ自書ヲ要シタルハ其者ニ取リテ極メテ重大ナル行爲ナルカ故ニ他人ノ筆蹟ヲ加タルトキハ遺言者ノ真意ニ出タルモノト看ルコト能ハサルヲ以テナリ故ニ一字一句ニテ他人ノ筆蹟ノ加ハリタルトキハ遺言書ハ一切無効ト爲ササルヘカラス而シテ他人ノ筆蹟ノ加ハリタルハ一部ナルニ拘ハラス證書ノ全部ヲ無効ト爲スハ要式行爲ニ於ケル當然ノ結果ナリ然レトモ遺言者ノ自筆ニテ成リタル證書ニ他人カ私カニ字句ヲ加ヘタルカ如キハ遺言者ノ不知セシメ所ニシテ既ニ適法ニ成立シタルモノナレハ之カ爲メニ毫モ其效力ニ影響ヲ及ボスモノニ非ス故ニ中絶ノ一ノ遺言ニシテ第二 遺言者ハ捺印アルコトノ是レ亦遺言者ノ意思表示ノ確實ナルコトヲ明カニセシカ爲メナリ縱令第一ノ條件ヲ備ヘ遺言書ハ全文遺言者ノ自筆ナリトモ捺印ナキトキハ其證書ハ草案ナルモ知ルヘカヲナレトモ捺印アルトキハ本證書タルコトノ疑アラサルナリ自遺言書ニシテ全文遺言者ノ自筆ヲ要スル

以上二箇ノ條件ヲ具備スルトキハ遺言書ハ有效タリト雖モ遺言書ニ挿入削除其他變更ヲ爲シタルトキハ其場所ヲ指示シ之ヲ變更シタル旨ヲ附記シテ特ニ之ニ署名シ且其變更ノ場所ニ捺印セサルトキハ效力ヲ有セス若シ此方式ニ違フトキハ其變更ハ效力ヲ有セス隨テ變更前ノ遺言書ヲ以テ遺言者ノ真正ノ意思表示ト爲ササルヘカラス而シテ此ノ如キ方式ヲ設ケタルハ挿入削除其他ノ變更ハ本人カ之ヲ爲シタルカ將タ他人カ之ヲ爲シタルカ後日ニ至リ分明ナラサル恐アルヲ以テナリ要スルハ遺言者ノ筆蹟ニ捺印アルコトヲ要スルヲ要スル○公正證書ニ要スル方式 第一千六十九條 公正證書ニ依リテ遺言ヲ爲スモノハ左ノ方式ニ從フコトヲ要スルハ遺言者ノ筆蹟ニ捺印アルコトヲ要スルヲ要スルハ遺言者二人以上ノ立會アルコトヲ要スルヲ要スルハ遺言者ノ趣旨ヲ公證人ニ口授スルコトヲ要スルヲ要スルハ遺言者及ビ公證人カ筆記正確ナルコトヲ承認シタル後各自之ニ署名捺印スルコト但遺言者カ署名スルコト能ハサル場合ニ於テハ公證人其

事由ヲ附記シテ署名ニ代フルコトヲ得ルハ、
五 公證人カ其證書ハ前四號ニ掲ケタル方式ニ從ヒテ作リタルモノナル旨ヲ附記シテ之ニ署名捺印スルコト(舊民法財産取得得編第三七〇條)

公正證書ニ依ル遺言書カ有效ナル爲メニハ公證人規則ニ從フノ外向ホ特ニ左ノ方式ニ從ハサルベカラズ

第一 證人二人以上ノ立會アルコト 公證人規則第二十八條ニ依レハ公正證書ヲ作成スルニ付キ要スル證人ハ一人ナレトモ公正證書ニ依ル遺言書ノ作成ニハ二人以上ノ證人ヲ要セリ蓋シ法律カ遺言書ノ作成ニ普通ノ公正證書ノ作成ヨリ多數ノ證人ノ立會ヲ要スルコトト爲シタルハ遺言カ效力ヲ生スル時ニ在リテハ證人ノ往往存在セサルコトアルヲ以テ其確實ナルコトヲ證スル爲メ寧ロ多數ナルコトヲ望ミタルナリ
第二 遺言者カ遺言ハ趣旨ヲ公證人ニ口授スルコト 此條件ハ實際公正證書ヲ作ルニ付キ殆ト必要ナル條件ナリ雖モ公證人規則ニ於テハ特ニ之ヲ要件ト爲ササルカ故ニ囑託人カ嘗テ作レル證書ノ草案ヲ指シ之ニ因リテ公正證書

ヲ作ラシムルコトヲ得ヘシト雖モ遺言書ヲ作ル場合ニ於テハ此ヲ如キコトハ許サレズ必ス公證人ハ遺言者カ口授シタル所ニ基キ證書ヲ作成セサルベカラズ蓋シ法律カ遺言書ヲ普通ノ場合ヨリ鄭重ニ爲シタル所以ハ遺言ハ眞ニ遺言者ノ意思ヨリ自由ニ表示セラルルコトヲ望ムニ由ルニ外ナラサルナリ但公證人ハ遺言者カ口授シタル通り記載スルコトヲ要セス唯遺言者カ口授シタル趣旨ニ從ヘハ足ルモノトス
第三 公證人カ遺言者ノ口述ヲ筆記シテ遺言者及ヒ證人ニ讀聞カスコト 此條件ハ遺言者ノ意思表示ト之ヲ筆記シタル文面ト相違ナク公證人カ正實ニ錄取シタルヤ否ヤヲ確カムル爲メニシテ公證人規則第三十四條ノ規定ト左シタル差異アラサルナリ
第四 遺言者及ヒ證人カ筆記ノ正確ナルコトヲ承認シタル後各自之ニ署名捺印スルコト 舊民法ノ如ク公證人カ單ニ筆記シタル所ヲ朗讀スルノミニテ足レリト爲ストキハ尙ホ遺言書ヲ確實ノモノトシタルニ足ラサルヲ以テ多數ノ立法例ハ更ニ筆記ノ本文ヲ遺言者及ヒ證人ニ示スコトヲ命スルモノナレ

ハ本法モ亦此例ニ倣ヒ遺言者及ヒ證人カ發證人ノ筆記イ正確ナルモノトモ承認シテ各自署名捺印スルモノトヲ要スルモノト爲セリ加之舊民法ハ氏名ヲ自署名ハコト能ハサル者ニモ遺言ノ證人タルコトヲ許スト雖モ本法ハ遺言ノ確實ナルコトヲ期シ證人ハ少クモ自ラ署名スルコトヲ得ル者タルコトヲ要スルモノト爲シタリ依テ本號但書ニ於テハ單ニ遺言者カ署名スルコト能ハサル場合ニ於ケル便宜法ヲ設ケタリ而シテ本號ノ規定ハ公證人規則第三十四條第一項ト殆ト同一ナリ

第五 公證人カ其證書ハ前四號ニ掲ケタル方式ニ從ヒテ作リタルモノナル旨ヲ附記シテ之ニ署名捺印スルコト 公證人規則第三十四條ニ依レハ關係人ニ讀聞カセタル旨ヲ記入スル外公證人及ヒ關係人ノ署名捺印ノミヲ以テ足レリトスト雖モ遺言書ノ確實ナルコトヲ期スルカ爲メ尙ホ其外特ニ第一號乃至第四號ノ方式ニ從ヒタル旨ヲ附記スルコトト爲セリ是レ亦多數ノ立法例ニ倣ヒタルモノニシテ此ノ如クスルトキハ特ニ公證人ノ注意ヲ惹起スヘキナリ

○秘密證書ニ依ル方式 第一千七十條 秘密證書ニ依リテ遺言ヲ爲スニハ左ノ

方式ニ從フコトヲ要ス

一 遺言者カ其證書ニ署名捺印スルコト

二 遺言者カ其證書ヲ封シ證書ニ用キタル印章ヲ以テ之ニ封印スルコト

三 遺言者カ公證人一人及ヒ證人二人以上ノ前ニ封書ヲ提出シテ自己ノ

遺言書ナル旨及ヒ其筆者ノ氏名住所ヲ申述スルコト

四 公證人カ其證書提出ノ日附及ヒ遺言者ノ申述ヲ封紙ニ記載シタル後

遺言者及ヒ證人ト共ニ署名捺印スルコト

第一千六十八條第二項ノ規定ハ秘密證書ニ依ル遺言ニ之ヲ準用ス(舊民法財產

取得編第三七一條)

秘密證書ニ依ル遺言書ハ左ノ條件ヲ具備スルニ非サレハ秘密證書トシテ效力

ヲ有セス

第一 遺言者カ其證書ニ署名捺印スルコト 秘密證書ハ猶ホ自筆證書ノ如ク

遺言者自ラ作ル證書ナレトモ全文遺言者ノ自筆ヲ要セス唯遺言者カ證書ニ自

ラ氏名ヲ筆記シ且捺印ヲ爲セハ足ルモノトス但遺言者ハ全文自筆ノモノヲ以

ヲ秘密證書ト爲スコトヲ得ヘシ
 第二 遺言者カ其證書ヲ封シ證書ニ用ヒタル印章ヲ以テ之ヲ封印スルコト自
 此證書ハ遺言者自ラ封緘シテ上ニ證書ニ用ヒタル同一捺印ヲ爲ササルヘ
 カラサルモノニシテ此證書カ他ノ二證書ト異ナリ其名稱ノ出ツル所以ナリ公
 正證書ハ之ヲ作リタル公證人及ヒ立會ヒタル證人ニ於テ證書ヲ題旨ヲ了知シ
 又自筆證書ハ他人ノ筆記ヲ許サス且其作成ニハ證人ヲ要セザレトモ此二者ハ
 法律ニ於テ封緘スルコトヲ命セザルガ故ニ他人ノ知ルコトヲ得ヘケレトモ此
 秘密證書ニ在リテハ然ルコトナシ
 第三 遺言者カ公證人一人及ヒ證人二人以上ノ前ニ封書ヲ提出シテ自己ノ遺
 言書ナル旨及ヒ其筆者ノ氏名住所ヲ申述スルコトニ秘密證書ハ既ニ叙述スル
 カ如ク遺言者自ラ其本文ヲ筆記スルコトヲ要セス亦證書中ニ日附ノ記載ヲモ
 要セザルカ故ニ遺言者ヲシテ公證人及ヒ證人ノ前ニ封印シタル遺言書ヲ提出
 セシメ以テ遺言書タルコトヲ正確ナラシメサルヘカラス此ノ如クナルトキハ
 後日本人ノ遺言書タルコトニ付キ紛争ノ起ルヘキ恐アラサルナリ而シテ遺言

書ノ筆者ノ氏名住所ヲ申述セシムルハ他ナシ後日若シ遺言ニ付キ争ノ生シタ
 ルトキハ其者ニ就キ果シテ眞實ナルヤ否ヤヲ取質スコトヲ得ヘケレハナリ
 第四 公證人カ其證書提出ノ日附及ヒ遺言者ヲ申述ヲ封紙ニ記載シタル後遺
 言者及ヒ證人ト共ニ之ニ署名捺印スルコトニ證書提出ノ日附ヲ必ス遺言書ノ
 封紙ニ記載スヘキコトヲ公證人ニ命シタル所以ハ秘密證書ニハ別ニ日附ヲ記
 載スルコトヲ要セザルヲ以テナリ而シテ日附及ヒ申述ヲ別紙ニ記載セシムル
 シヲ必ス封紙ニ記載セシムルコトト爲シタル所以ハ之ヲ別紙ニ記載セシムル
 コトト爲ストキハ遺言書カ果シテ公證人ノ前ニ提出シタルモノナルヤ否ヤヲ
 確知シ難キカ故ナリ
 第五 證書中ノ捺入削除其他ノ變更ハ遺言者其場所ヲ指示シテ之ヲ變更シタル
 旨ヲ附記シテ特ニ之ニ署名且其變更ノ場所ニ捺印スルコトニ秘密證書中ニ
 塗抹挿入削除其他ノ變更ヲ加ヘタル場合ニモ之ヲ明カニスヘキコトハ敢テ自
 筆證書ノ場合ト異ナルコトナキカ故ニ自筆證書ニ於ケル第六十八條第二項
 ノ規定ヲ茲ニ準用スルコトト爲シタル所以ナリ

○方式ノ缺ケタル秘密證書——第一千七十一條、秘密證書ニ依ル遺言ハ前條ニ定メタル方式ニ缺ケタルモノアルモ第一千六十八條ノ方式ヲ具備スルトキハ自筆證書ニ依ル遺言トシテ其效力ヲ有ス蓋民法財産取得編第三七二條、秘密證書ニ依ル遺言カ效力ヲ有スルモハ前條ニ掲ケタル條件ヲ具備スルコトヲ要シ若シ其一ヲ缺クトキハ秘密證書トシテハ效力ヲ有セス例ヘハ證人カ封紙ニ氏名ヲ自書セス又ハ遺言書ノ封シアルモ之ニ封印アラサルカ如キ是ナリ然レトモ其證書ニシテ自筆證書ノ方式ヲ完備スルモノナルトキ即チ遺言者カ自筆ヲ以テ其全文日附及ヒ氏名ヲ自書シ之ニ捺印シタルモノナルトキハ自筆證書ニ依ル遺言書トシテ有效トスヘキハ固ヨリ當然ナリ是レ蓋シ遺言者カ秘密證書ノ方式ニ依ラント欲シタルニハ相違ナカルヘキモ固ヨリ其遺言ノ效力ヲ生スルコトヲ希望シタルコトハ疑フヘカラサレハナリ

○秘密證書ノ方式中申述ノ代用筆記——第一千七十二條、言語ヲ發スルコト能ハサル者カ秘密證書ニ依リテ遺言ヲ爲ス場合ニ於テハ遺言者ハ公證人及ヒ證人ノ前ニ於テ其證書ハ自己ノ遺言書ナル旨並ニ其筆者ノ氏名住所ヲ封紙ニ

自書シテ第一千七十條第一項第三號ノ申述ニ代フルコトヲ要ス

公證人ハ遺言者カ前項ニ定メタル方式ヲ踐ミタル旨ヲ封紙ニ記載シテ申述書ノ記載ニ代フルコトヲ要ス

秘密證書ニ依ル遺言ノ方式トシテ遺言者ハ自己ノ遺言書ナル旨及ヒ其筆者ノ氏名住所ヲ申述セサルヘカラス(第一〇七〇條第一項第三號故ニ自書スルコトハ得ルモ言語ヲ發スルコト能ハサル者例ヘハ遺言者カ疾病若クハ負傷ノ爲メ言語ヲ發スルコト能ハサル者又ハ啞者ナルトキハ秘密證書ニ依リテ遺言ヲ爲スコト能ハサルニ至ル然レトモ此ノ如キ場合ニ口頭ニテ申述スル代リニ筆記ヲ以テ其趣旨ヲ述ヘシムルコトヲ許セハ極メテ便利ナルカ故ニ本法ハ多數ノ立法例ニ倣ヒ第一千七十條第一項第三號ノ申述ハ筆記ヲ以テ封紙ニ自書シ公證人モ亦其次第ヲ封紙ニ記載スヘキモノト爲セリ

○本心ニ復シタル禁治產者ノ爲ス遺言ニ要スル條件——第一千七十三條、禁治產者カ本心ニ復シタル時ニ於テ遺言ヲ爲スニハ醫師二人以上ノ立會アルコトヲ要ス

遺言ニ立會ヒタル醫師ハ遺言者カ遺言ヲ爲ス時ニ於テ心神喪失ノ狀況ニ在
 タサリシ旨ヲ遺言書ニ附記シテ之ニ署名捺印スルコトヲ要ス但祕密證書ニ
 依リテ遺言ヲ爲ス場合ニ於テハ其封紙ニ右ノ記載及ヒ署名捺印ヲ爲スコト
 ヲ要ス(舊民法財産取得編第三五七條)

禁治產者カ遺言ヲ爲シ得ルコトハ法律ハ既ニ第六十二條ニ於テ認メタル所
 ナリ然レトモ禁治產者ハ心神喪失ノ狀況ニ在ル者ナルカ故ニ其狀況ニ在ル間
 ニ於テハ意思ヲ要スル遺言ヲ爲スコト能ハサルハ勿論ナルヲ以テ禁治產者カ
 遺言ヲ爲スコトヲ得ルハ一時心神ヲ回復シタル間タラサルヘカラス而シテ禁
 治產者カ一時本心ニ復シタル間ニ於テ爲シタル遺言ハ後日ニ至リ果シテ其本
 心ニ復シタル間ニ爲シタルモノナルヤ否ヤニ付キ爭ノ生スヘキ恐アルヲ以テ
 禁治產者カ遺言ヲ爲ス場合ニハ特ニ醫師二人以上ノ立會ヲ要シ其證明アルニ
 非ナレハ有效ナラサルモノト爲セリ即チ遺言書ノ作成ニ立會ヒタル醫師ハ遺
 言者カ遺言ヲ爲ス當時心神喪失ノ狀況ニ在ラサリシ旨ヲ遺言書ニ附記シテ之
 ニ署名捺印スヘキモノト爲セリ

自筆證書又ハ公正證書ニ依リテ遺言ヲ爲ス場合ニ於テハ以上ノ附記ハ遺言書
 中ニ爲スヘケレトモ祕密證書ニ依ル遺言ニ於テハ之ト同一ノ方式ニ從ハシム
 ルコト能ハサルカ故ニ其封紙ニ右ノ記載及ヒ署名捺印ヲ爲スヘキモノト爲セ
 リ

公正證書ニ依ル遺言書ヲ作ル場合ニハ以上ノ如ク醫師二人以上ノ立會アリタ
 ヲトモ證人ノ立會カ免除セラレタルニ非ス遺言書ノ作成ニ證人ヲ要スル場合
 ニハ證人ノ外向キ醫師ノ立會ヲ要スルモノトス又自筆證書ニ依リテ遺言ヲ爲
 ス普通ノ場合ニハ既ニ叙述シタルカ如ク證人ノ立會ヲ要セザレトモ禁治產者
 カ自筆證書ニ依リテ遺言ヲ爲ス場合ニハ特ニ醫師ノ立會ヲ要スルモノトス又
 ○遺言ノ證人又ハ立會人タルコトノ無能力ハ第一千七百四條ノ左ニ揭ケタル者
 ハ遺言ノ證人又ハ立會人タルコトヲ得ス

- 一 未成年者
- 二 禁治產者及ヒ準禁治產者
- 三 刺害公權者及ヒ停止公權者

四 遺言者ノ配偶者及直系血族

五 推定相續人受遺者及遺言者並ニ直系血族

六 公證人ト家ヲ同シタル者及ヒ公證人ノ直系血族並ニ筆生雇人舊民法財產取得編第三七三條

遺言ノ效力ヲ生スルニ遺言者存在セザルカ故ニ遺言ニ付キ爭ノ生シタルト
キ其爭ハ證人又ハ立會人ノ遺言ニ依リテ定メラルヘク何人ト雖モ證人又
ハ立會人タルコトヲ許スコト爲スニ於テハ容易ク詐欺ノ行ハルル弊アリ
以テ之ヲ豫防スルカ爲メニ法律ハ或者ヲ遺言ノ證人又ハ立會人タルコトヲ資
格ナキ者ト爲セリ即チ左ノ如シ
第一 未成年者 此者ハ自ラ法律行爲ヲ爲ス能力ヲ有セザルニ重要ナル效力
ヲ生スル遺言ノ證人又ハ立會人タルコトヲ得テラシムルハ固ヨリ當然ナリ
第二 禁治產者及ヒ準禁治產者 禁治產者カ全ク心神喪失ノ狀況ニ在ル間ニ
於テ證人タルコトヲ得サルハ勿論ナリ而シテ其本心ニ復セル間ニ在リテハ證
人タルコトヲ妨ケサルモノノ如シト雖モ其證人タリシト結果シテ本心ニ復セ

シヤ否ヤニ付キ爭ノ生スルコトアルニキカ故ニ此ノ如キ爭ヲ豫防スルカ爲メ
ニ其本心ニ復セル間ト雖モ證人タルコトヲ許ササルコトセリ又準禁治產者
ハ自ラ法律行爲ヲ爲スノ能力ナキニ非スト雖モ其重大ナル行爲ヲ爲スニ當リ
テハ保佐人ノ同意ヲ得ルコトヲ要スルカ故ニ未成年者カ證人タルコトヲ得サ
ルト同一ノ理由ニ依リ準禁治產者モ證人又ハ立會人タルコトヲ得サルモノト
爲セリ
第三 剝奪公權者及ヒ停止公權者 此等ノ人ハ重罪若クハ輕罪ヲ犯シ利ニ處
セラレタル者ニシテ社會ニ於テ信用ヲ失ハル者ナルカ故ニ遺言ノ證人又ハ立
會人ト爲ルコトヲ得サラシムルハ相當ナリ
第四 遺言者ノ配偶者 遺言者ノ配偶者ハ多クハ遺言ニ付キ利害ノ關係ヲ有
スル者ナルカ故ニ之ニ證人ト爲ルコトヲ許ストキハ咸ク自己ノ利益ヲ圖ルニ
恐ナシトセシメ以テ證人又ハ立會人タルコトヲ得サラシムルハ適當ニ
第五 推定相續人受遺者及ヒ其配偶者並ニ直系血族 此等ノ者モ亦前號ノ者
ノ如ク遺言ニ付キ利害關係ヲ有サル者ナルカ故ニ前號ト同一ノ理由ニ依リ證

人又ハ立會人タルコトヲ禁シタリハ、當テハ、遺言ニ關シテ同一ノ理由ニ由リテ、茲ニ所謂推定相續人トハ法定ノ推定家督相續人ノミナラズ此種ノ家督相續人ナキ場合ニ於テ被相續人ノ指定シタル相續人及ヒ其他法律上ノ順位ニ於テ當然相續人タル地位ニ在ル者ハ皆包含セラレモトス又獨リ家督相續人ニ止マラス遺產相續人モ同シク包含スルモノトス、
第六 公證人ト家ヲ同シクスル者及ヒ公證人ノ直系血族並ニ筆生、雇人、公證人カ其直系血族筆生又ハ雇人ヲ自己ノ作成スル公正證書ノ證人又ハ立會人ト爲スコトヲ得ルモノト爲ストキハ公證人カ不正ノ行爲ヲ爲ストモ情實上之ヲ抑止スルコトヲ得サル間柄ナルカ故ニ證人又ハ立會人タルコトノ無資格者ト爲シタリ又公證人ト家ヲ同シタスル者ハ之ト親族關係ヲ有セスト雖モ以上ノ者ト同様ノ地位ニ在ル者ナルカ故ニ是レ亦無資格者ト爲シタリ、
○共同遺言ハ禁止、第一千七十五條 遺言ハ二人以上同一ノ證書ヲ以テ之ヲ爲ス、
ス、トヲ得ス舊民法財產取得編第三六八條第二項ニ依リテ又舊遺言法共同遺言トハ一箇ノ證書ヲ以テ二人以上ノ人カ爲シタル遺言ヲ謂フモノニシ

テ此ノ如キ遺言ヲ許ストキハ種種ノ疑問ヲ生セシムルニ至ル即チ二人以上ノ人カ各相互ノ利益ニ遺言ヲ爲シ又ハ二人以上ノ人カ共ニ第三者ノ爲メニ遺言ヲ爲シタルトキ其各自ノ遺言ハ或ハ他ノ一人カ遺言ヲ自己ノ爲メ又ハ第三者ノ爲メ爲シタルニ因リ之ヲ爲シタルモノナルヤ否ヤヲ知ルヘカラス換言スレハ各自ノ遺言ハ他ノ者ノ遺言ヲ條件ト爲シタルモノナルヤ否ヤヲ知ルヘカラス然ルニ若シ他ノ一人カ遺言ヲ取消シタルトキハ其一人ノ遺言ハ其意思ニ反セシテ成立スルモノナルヤ或ハ他ノ一人カ遺言ヲ取消シタルニ因リ當然其一人ノ遺言ハ取消サルモノナルヤ知ルヘカラスシテ遺言ノ解釋上甚タ困難ナルノミナラス一箇ノ證書ヲ以テ二人以上遺言ヲ爲シタルトキハ遺言取消ノ自由ヲ妨クルヲ以テ多數ノ立法例ニ倣ヒ共同遺言ヲ禁シタル所以ナリ、
第二款 特別方式
此方式ハ曩ニ略述シタルカ如ク普通方式ニ依ルコト能ハサル特別ノ事情アル場合ニ限リ依ルモノニシテ法律ハ特別ノ事情アル場合ヲ限定セリ即チ死亡ノ

急迫第一〇七六條傳染病ノ流行第一〇七七條從軍第一〇七八條從軍者死亡ノ急迫第一〇七九條艦船乗込第一〇八〇條第一〇八一條外國在留第一〇八六條ノ場合等はナリ

○第一 死亡ハ危急ニ迫リタル場合ニ於ケル特別方式——第一千七十六條 疾病其他ノ事由ニ因リテ死亡ノ危急ニ迫リタル者カ遺言ヲ爲サント欲スルトキハ證人三人以上ノ立會ヲ以テ其一人ニ遺言ノ趣旨ヲ口授シテ之ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ其口授ヲ受ケタル者之ヲ筆記シテ遺言者及ヒ他ノ證人ニ讀聞カセ各證人其筆記ノ正確ナルコトヲ承認シタル後之ニ署名捺印スルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依リテ爲シタル遺言ハ遺言ノ日ヨリ二十日內ニ證人ノ一人又ハ利害關係人ヨリ裁判所ニ請求シテ其確認ヲ得ルニ非サレハ其效ナシ

裁判所ハ遺言カ遺言者ノ眞意ニ出タル心證ヲ得ルニ非サレハ之ヲ確認スルコトヲ得ス

此特別方式ニ依ル場合ハ疾病其他ノ事由例ヘハ負傷ニ因リテ死亡ノ急迫ナル

場合ニシテ自筆證書ヲ作ルコト能ハス又公正證書若クハ秘密證書ニ依ルノ暇ナキ場合タラサルヘカラス而シテ之ニ要スル條件ハニアリ

第一 證人三人以上ノ立會アルコト 此證人三人中一人ハ遺言者ヨリ遺言ノ趣旨ノ口授ヲ受ケ之ヲ筆記シテ遺言者及ヒ他ノ證人ニ讀聞カセ而シテ各證人ハ筆記ノ正確ナルコトヲ承認シタル後筆記シタル證人ト共ニ署名捺印セサルヘカラス此ノ如クスルトキハ遺言書ヲ偽造變造スルコトヲ得タルヘシ

第二 裁判所ノ確認ヲ得ルコト 遺言書作成ノ爲メニハ多クノ證人ヲ必要ト爲シ之カ偽造變造ヲシテ容易ナラシメスト雖モ萬一總テノ證人カ通謀シテ偽造變造ヲ爲スヤモ知ルヘカラス縱令遺言書カ偽造變造タラサルモ臨終ノ病者ニ迫リ其本旨ニ非サル遺言ヲ爲サレムルコトナシトモ是ヲ以テ此場合ノ遺言書ハ裁判所ニ於テ確認セシムルコトト爲セリ

確認ノ請求ハ遺言ヲ爲シタル日ヨリ起算シテ二十日內ニ爲ササルヘカラス又其請求ヲ爲スヘキ者ハ證人ノ一人又ハ遺言ノ利益ヲ受クヘキ人遺言者ノ相續人等利害關係人タラサルヘカラス而シテ裁判所ニ於テ遺言ノ確認ヲ爲スル管

ニ其形式ノ違ハラス其實質ニ入リ遺言カ遺言者ノ真意ニ出テタルコトヲ心證ヲ得ルニ非ナレハ確認ヲ爲スコトヲ得タルヲ依テ裁判所ハ些少ノモ遺言カ遺言者ノ真意ニ出タルニ非ナル嫌疑アルトキハ決シテ確認ヲ爲スコトヲ得タルモノトス

此裁判管轄ハ遺言者ノ住所又ハ相続開始地ノ區裁判所ナリ非訟事件手續法第一〇九條

○第二 傳染病流行ノ場合ニ於ケル特別方式——第千七十七條 傳染病ノ爲メ行政處分ヲ以テ交通ヲ遮斷シタル場所ニ在ル者ハ警察官一人及ヒ證人一人以上ノ立會ヲ以テ遺言書ヲ作ルコトヲ得舊民法財産取得編第三七六條

傳染病ノ爲メ行政處分ヲ以テ交通ヲ遮斷シタル場合ニ於テハ普通ノ方式ニ依テ立入ルコト能ハス而シテ此場合ニ於テハ二人以上ノ證人ヲ得ルコト難ク又公證人ヲ其場所ニ立入ラシムルコト能ハサルヘシ故ニ此場合ニ於テハ警察官一人及ヒ證人一人以上ノ立會ヲ以テハ有效ニ遺言書ヲ作ルコトヲ得ルモノト爲セリ此場合ニ警察官ヲ立會人ト爲シタルハ警察官ハ其職務上交通遮斷ノ場所ニ

立入ルコトヲ得タルヲ以テナリ

○第三 從軍中軍人軍屬ノ依ル特別方式——第千七十八條 從軍中ノ軍人及ヒ軍屬ハ將校又ハ相當官一人及ヒ證人二人以上ノ立會ヲ以テ遺言書ヲ作ルコトヲ得若シ將校及ヒ相當官カ其場所ニ在ラサルトハ準士官又ハ下士一人又ハ之ニ代フ者コトヲ得然レモ其遺言ハ其遺言ニテ其遺言者ノ從軍中ノ軍人又ハ軍屬カ疾病又ハ傷病ノ爲メ病院ニ在ルキハ其院ノ醫師ヲ以テ前項ニ據テ將校又ハ相當官ニ代フコトヲ得舊民法財産取得編第三七四條第三七五條

此場合ハ外國ニ從軍セシ場合タルト内國ニ於テ從軍セシ場合タルト同ハス廣ク適用セラルルモノニシテ從軍中ノ軍人軍屬ハ戰地ニ在ル者ナルカ故ニ何時戰死スルカ斗リ難ク殊ニ疾病又ハ傷病ノ爲メ死ニ瀕スル者ヲ知キハ自筆證書ヲ遺言書ヲ作ルコト能ハス又其他秘密證書又ハ公正證書ヲ以テ遺言書ヲ作ルコトヲ得タルハ尙更ナレハ簡易ナル特別方式ニ依ラシムルコトヲ爲シタルハ相當ナリ而シテ將校又ハ相當官ヲ立會ハシムルコトヲ爲シタルハ他ナレ此等ノ

大ハ軍中ニ在リテ部下兵卒ヲ指揮スル重職ヲ帶フ者ニハテ市分ノ價額又
重タコトヲ得ヘキ故ニ之ヲ以テ公證人ニ代テタリ外ナラズオモ然レハ由
テ軍隊派遣ノ實際上ニ於テハ別ニ將校及相當官ニテ名義上ノ軍官又ハ下
士ノ生存スルハトアラズ此ノ如キ場合ニモ將校又ハ相當官ニ立會ヲ要スル
事ト爲メトキハ遺言書ヲ作ルハ軍中ノ便ハ重ルニテ此ノ場合ニモ軍士
官又ハ下士官ヲ以テ將校又ハ相當官ニ代テ作ルコトヲ爲シ實際ノ便宜ヲ圖リ
テ而シテ證人ハ孰レノ場合ニ於テモ二人以上ヲ要スルモノトス

從軍中ノ軍人軍屬カ疾病又ハ傷疾ヲ爲シ病院ニ在ルトキハ病院ニモ將校又ハ
相當官アラサルコト多キ故ニ此場合ニモ將校又ハ相當官ニ代テ病院ノ
醫師ヲ以テスルコトヲ得ルモスル爲セリ而シテ其病院ノ醫師ニシテ海陸軍ノ
軍醫ナルトキハ第一項ノ規定ニ依リテ遺言ヲ爲スコトヲ得ヘキハ職責其倫
醫師ニシテ院務ヲ執ル場合ニ於テ第二項ノ規定ニ依リテ此醫師ヲ立會人トシテ
遺言書ヲ作ルコトヲ得ヘキハトセリ此ノ規定ハ遺言中ノ軍人
○第四 從軍者死亡ハ危急ニ迫リタル場合ニ於ケル特別方式ニ第千七十九條

從軍中疾病傷疾其他ノ事由ニ因リテ死亡シ危急ニ迫リタル軍人及軍屬ハ
證人二人以上ノ立會ヲ以テ口頭ニ遺言ヲ爲スコトヲ得前項ノ規定ニ依
リテ規定ニ從ヒテ爲シタル遺言ハ證人其趣旨ヲ筆記シテ署名捺印シ且證人ノ
一人又ハ利害關係人ヨリ遲滞ナク遺言又ハ主理ニ請求シテ其確認ヲ得ルニ
非ラレハ其效ナシトス

第千七十六條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用スルニ依リテ軍中ノ
從軍中ノ軍人軍屬カ疾病ニ罹リ傷疾ヲ致シ又ハ其他ノ理由ニ因リ死亡シ危急
ニ迫リタルトキハ略式ヲ以テ容儀ニ遺言ヲ爲スルコトヲ認許セサルカラス而
シテ第千七十六條ニ於テ通常人ニシテ疾病其他ノ理由ニ因リ死亡シ危急ニ迫
リタルトキ三人ノ證人ノ面前ニ於テ口頭ヲ以テ略式ヲ遺言ヲ許シタル以上
從軍中ノ軍人軍屬ノ死亡シ危急ニ迫リタル場合ニ一層簡略ナル方式ヲ以テ遺
言ヲ爲スコトヲ許スル當然ナリ特ニ本條ノ場合ハ從軍中ノ軍人軍屬ヲ以テ證人ノ
多數ヲ望ムハ難キカ故ニ二人以上ノ立會ヲ以テ足ルコトヲ爲シタル又從軍中
匆忙ノ際普通ノ場合ハ如ク遺言者ヲ以テシテ其遺言ハ趣旨ハ口授セシメ之ヲ

直チニ筆記シ遺言者及ヒ他ノ證人ニ讀聞カセタル後署名捺印ヲ爲シテ如キヤ事實上甚タ困難ナルヘケン故ニ本條ノ場合ニ於テ公單ヲ證人ヲシテ遺言ハ裁判所ノ確認ヲ求メスシテ證人一人又ハ利害關係人無リ理事陸軍及ハ主運海軍ニ確認ノ請求ヲ爲スヘキコトト爲セリ蓋シ理事又ハ主運海軍ノ法官ナルカ故ニ從軍ノ際ニ之ヲシテ裁判所ノ職務ニ屬スル事務ヲ掌ラシムルハ相當ナリ其他確認請求ノ時期ニ付テ從軍中ノ者ニ對シ第七十六條第二項ノ如ク相當ノ期間ヲ指定シテ遺言書ノ提出ヲ強要セシムルコトヲ得タルハ實際ノ事情ニ照シテ疑ナキ所ナルヲ以テ別ニ確認ヲ求ムル期間ヲ定メスシテ遲滞ナクト云ヒタル所以ナリ

此場合ニ於テ理事又ハ主理カ遺言ノ確認ヲ爲スニモ普通ノ場合ノ如ク管ニ遺言ノ形式ノ調査ヲ爲スニ止ラズ尙ホ實質上遺言カ遺言者ノ真意ニ出テタルコトノ心證ヲ得ルニ非ザレハ確認ヲ爲スコトヲ得タルモト爲セリ

此場合ノ手續ニ關シテハ明治三十三年五月七日法律第十三號ヲ規定ス

○第五 艦船乗込ハ場合ニ於ケル特別方式ニ普通ノ場合ノ第八十條ノ艦

船中ニ在ル者ハ軍艦及ヒ海軍所屬ノ船舶ニ於テハ將校又ハ相當官一人及ヒ證人二人以上其他ノ船舶ニ於テハ船長又ハ事務員一人及ヒ證人二人以上ノ立會ヲ以テ遺言書ヲ作ルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ將校又ハ相當官カ其艦船中ニ在ラサルトキハ準士官又ハ下士一人ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得舊民法財産取得編第三七七條第三七八條ノ規定ニ準ジテ遺言書ヲ作ルコトヲ得

艦船ニ乗込メタル者ハ船中ニハ公證人在ラサルカ故ニ公正證書ニ依リ遺言書ヲ作ルコト能ハサルハ勿論ナリ是ヲ以テ若シ特別方式ヲ設クズンヤ文字アル者ハ自筆證書ニ依リテ遺言ヲ爲スコトヲ得ヘシト雖モ文字ナキ者ハ有效ニ遺言ヲ爲スコト能ハサルニ至ルヲ以テ略式遺言ノ方式ヲ認メタル所以ナリ

舊民法ニ於テハ航海中ニ在ル者ニ對シテハ略式遺言ヲ爲スルコトヲ許サズト雖モ航海中ニ在ラズシテ現ニ軍艦其他ノ船舶ニ在ル者ハ其事情散テ航海中ニ在ル者ト異ナル所ナキヲ以テ本法ハ其範圍ヲ擴張シ艦船中ニ在ル者ヲシテ特別

方式ニ依リ遺言ヲ爲スコトヲ許シテ、即チ左ノ如ク、
(一) 軍艦及ヒ海軍所屬ノ船舶ニ於テハ、恰モ從軍中ノ軍人軍屬ニ於ケル中、如ク將校又ハ相當官一人及ヒ證人二人以上ノ立會ヲ要シ、若シ將校又ハ相當官カ其艦船中ニ在ラサルトキハ、軍士官又ハ下士ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得ルモノト爲セリ。
(二) 軍艦及ヒ海軍所屬ノ船舶以外ノ船舶ニ於テハ、船長又ハ事務員一人及ヒ證人二人以上ノ立會ヲ要スルコト爲セリ。

○第六 艦、船、乘込ノ場合ニ於ケル特別方式(二)遺贈ノ場合——第一千八百一一條第一千七百九條ハ規定ハ艦船遺贈ノ場合ニ之ヲ準用ス、但海軍ノ所屬ニ非タル船舶中ニ在ル者カ遺言ヲ爲シタル場合ニ於テハ、其確認ハ之ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ要ス。
艦船遺贈ノ場合ニ於テハ、艦船乘込ノ普通ノ場合ニ於ケル方式ニ從ハシムルコト能ハス、換言スレバ、艦船遺贈ノ場合ハ恰モ軍人軍屬カ從軍中疾病傷疾等ニ因リ死亡ノ危急ニ迫リタル場合ト其事情ヲ同シウスルカ故ニ、第一千七百九條ノ規

定ヲ艦船遺贈ノ場合ニ準用スルモノト爲セリ、而シテ海軍所屬ニ非タル船舶ニ付テハ、主理ヲシテ確認ノ請求ヲ受ケルモノト爲セリ、理由カ先カ故ニ、此場合ニ於テハ其確認ハ第一千七百九條ノ場合ニ於ケルカ如ク之ヲ裁判所ニ請求セラルヘカラ。
○傳染、病、流行、從軍中ノ軍人軍屬、艦、船、乘込ノ場合ニ於ケル特別方式——第一千八百一十二條第一千七百九條第一千七百九條及ヒ第一千八百一十條ノ場合ニ於テハ、遺言者ニ立會人及ヒ證人各自遺言書ニ署名捺印スルコトヲ要ス、舊民法財產取得編第三三七九條第一項ニ於テハ、遺言者立會人及ヒ證人ノ署名捺印ヲ要ス。
第二傳染病流行(第一〇七七條第三從軍中ノ軍人軍屬第一〇七八條第五艦船乘込ノ場合ニ於テハ、公證人ヲシテ遺言書ヲ作ラシムルモノト爲セリ、遺言者自ラ遺言書ヲ筆記スルカ又ハ他人ヲシテ之ヲ筆記セシムル場合ナルカ故ニ、遺言者及ヒ筆者モ亦遺言書ニ署名捺印スルモノト爲セリ、遺言書ノ信用確保カ故ニ、各其署名捺印ヲ爲スルモノト爲セリ、又立會人證人カ署名捺印スルモノト爲セリ、第一千六百六條第一千七百九條及ヒ第一千八百一十一條ノ場合ニ於ケルト同シナリ、第一千七百九

民事訴訟法第六編
總則 執行ノ要件及ヒ執行ノ異議 執行ノ要件

ナルコトヲ表示スルモノナリ、上級審ノ書記カ民事訴訟法第四百九十九條第二項ニ基キテ判決確定ノ證明書ヲ付與スル場合ニハ中間證明書ヲ必要トセス何トナレハ上級審ノ書記ハ其當時現存スル訴訟記録ニ基キ完全ニ判決確定ノ有無ヲ調査スルコトヲ得レハナリ但控訴審ノ書記ハ其所屬審ノ言渡シタル一分判決ニ付キ確定證明書ヲ付與スル場合ニ於テ上告ノ提起ノ有無ヲ知ルコトヲ得ナルカ故ニ下級審ノ書記トシテ上級審ノ書記ノ付與スヘキ中間證明書ヲ必要ト爲スコトアルヤ言フ埃タス中間證明書ニハ法律カ表示スル如ク不變期間内ニ上訴ノ提起ナキ旨ヲ記載スルニ止マル隨テ上訴カ適法ナル方式ヲ履ミ適法ノ期間内ニ提起セラレタリトノ問題ヲ確定スルモノニ非ス然レトモ中間證明書ヲ付與スル書記ハ不變期間經過後上訴カ提起セラレタルモ又之ト同時ニ原狀回復カ申立アラレタルモ之ニ拘ハラス先ニ示シタル證明書ヲ付與スルコトヲ得何トナレハ此等ノ提起若クハ申立アリタルカ爲メニ不變期間内ニ上訴ノ提起アリタルモノト謂フコト能ハザレハナリ第三ニ判決ニ對シテ適法ナル上訴ノ提起又ハ故障ノ申立アリタルモ拋棄取下若クハ判決ノ言渡等ニ依リ判

決ノ形式の確定ノ存スルコト明確ナルトキハ裁判所書記ハ判決確定ノ證明書ヲ付與スルコトヲ得ルヤ當然ナリ然レトモ判決ニ對シテ上訴ノ提起又ハ故障ノ申立アリタル場合ニ於テ裁判所書記ハ之ニ拘ハラス判決確定ノ證明書ヲ付與スルコトヲ得ルヤ否ヤハ頗ル困難ナル問題ナリ裁判所書記ハ訴訟記録ニ基キ調査シタル結果トシテ判決ノ性質上上訴又ハ故障カ許スヘカラサルカ(例ヘハ障ヲ許ス闕席判決ニ對シテ上訴ヲ爲シタル場合ノ如キ)又ハ不變期間經過後ノ故提起若クハ申立ナルニ由リテ不適法ナリト認メタルトキハ判決確定證明書ヲ付與スルコトヲ得ルモ上訴又ハ故障カ法律上許スヘキモノナルヤ否ヤ又ハ法律上方式ニ適シテ提起セラレタルヤ否ヤヲ判斷スルニ非スシハ判決ノ形式の確定ヲ確知スルコトヲ得サル場合ニ於テハ判決確定ノ證明書ヲ付與スルコト能ハサルヘシ何トナレハ前示ノ判斷ハ裁判長又ハ裁判所ノ職權ニ屬シ第二五七條第二五九條第四〇二條第四一九條第四三九條裁判所書記ヲ審判スルコト能ハサルモノナルヲ以テ裁判長又ハ裁判所カ提起セラレタル上訴又ハ故障ノ適否ニ付キ裁判ヲ爲ササル間ハ形式の確定ノ存否ノ問題モ亦當然停止セラ

ル随テ裁判所書記ハ判決ノ形式の確定ノ證明書ヲ付與スルコト能ハサルナリ、裁判所書記ハ判決確定ノ證明書ヲ付與スルニ際シ附帶上訴ヲ爲スコトヲ得ルヤ否ヤヲ調査セサルヘカラス故ニ當事者ノ一方ヨリ上訴ヲ提起セラレタルトキハ判決確定ノ證明書ヲ付與スルコトヲ得ス又上訴ノ擴張ヲ爲スコトヲ得ルヤ否ヤヲ調査セサルヘカラス故ニ判決ノ一分若クハ數多ノ請求ノ一箇ニ對シテ上訴ヲ提起セラレタルトキハ上訴ニ依リテ攻撃セラレタル他ノ部分ニ付テモ判決確定ノ證明書ヲ付與スルコトヲ得ス何トナレハ這ハ判決ノ形式の確定ヲ遮斷スルモノナレハナリ(付與ノ手續裁判所書記ハ判決ノ形式の確定ノ證明書及ヒ中間證明書ノ付與ヲ拒絕シタルトキハ付與申請者ハ之カ處分ノ變更ヲ求ムルカ爲メニ裁判所書記所屬ノ受訴裁判所ニ對シ其裁判ヲ求ムルコトヲ得(第四六五條若シ該裁判所カ處分變更ノ理由ナキモノトシテ之カ申請ヲ却下シタルトキハ其却下ノ裁判ニ對シテ抗告ヲ爲スコトヲ得(第四六五條第二項)而シテ此場合ニ於テ抗告ニ非ズシテ即時抗告ヲ爲スヘキモノナリトノ學說アレトモ失當ノ見解ト信ス何トナレハ判決確定ノ證明書及ヒ中間證明書ニ關スル義

國ノ教育事務ヲ管掌シ市町村立小學校ヲ管理ス而シテ市立小學校及ヒ教員ノ執行スル國ノ教育事務ハ府縣知事之ヲ監督シ町村立小學校長及ヒ教員ノ執行スル國ノ教育事務ハ郡長之ヲ監督ス

私立小學校ニシテ市内ニ在ルモノハ府縣知事町村内ニ在ルモノハ郡長之ヲ監督ス

(第二) 中學校

中學校ニ關スル法規ハ中學校令ニ依リテ定メラル同令ニ於テハ中學校ハ男子ニ須要ナル高等普通教育ヲ爲スヲ以テ目的トスルモノニシテ北海道及ヒ府縣ニ於テハ土地ノ情況ニ應ジ一箇以上ノ中學校ヲ設置スルノ義務アリ而シテ其經費ハ北海道及ヒ沖繩縣ヲ除クノ外府縣ノ負擔トス郡市町村北海道及ヒ沖繩縣ノ區ヲ包含ス又ハ町村學校組合ハ土地ノ情況ニ依リ須要ニシテ其區域内小學校ノ設備上妨ナキ場合ニ限り中學校ヲ設置スルコトヲ得私人モ亦同令ノ規定ニ依リ中學校ヲ設置スルコトヲ得ヘシ

五箇年トシ其學科程度並ニ編制設備ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム中學校ノ教科書ハ文部大臣ノ檢定ヲ經タルモノニ付キ地方長官ノ認可ヲ經テ學校長之ヲ定ムルモノトス但文部大臣ノ檢定ヲ經タル教科書ヲ使用スル必要アルトキハ地方長官ハ文部大臣ノ認可ヲ經テ一時其使用ヲ認可スルコトヲ得中學校ノ教員ハ文部大臣ノ授與シタル教員免許狀ヲ有スル者タルヲ本則トス公立中學校ニ於テハ授業科ヲ徵收スルヲ以テ原則トシ特別ノ場合ノ外之ヲ減免スルコトヲ得ス

(第三) 高等女學校

高等女學校ニ關スル法規ハ高等女學校令ノ定ムル所ニシテ同令ニ依レハ高等女學校ハ恰モ男子ノ中學校ニ相當スルモノニシテ即チ女子ニ須要ナル高等普通教育ヲ爲スヲ以テ目的ト爲スモノナリ高等女學校ノ設置經費ノ負擔ニ關スル規定ハ中學校ニ於ケルト同様ナリ

其他高等女學校ノ設置廢止ニ關スル規定ハ總テ中學校ト同シ高等女學校ノ修業年限ハ四箇年トシ土地ノ情況ニ依リ一箇年ヲ伸縮スルコトヲ得高等女學校

ノ學科程度並ニ編制設備ニ關スル規定ハ文部大臣之ヲ定ム其他高等女學校ノ教科書教員授業科ニ關スル規定ハ大約中學校ニ於ケルト異ナルナシ

(第四) 師範學校

女子高等師範學校師範學校ノ三種トス所ナリ師範學校ヲ分チテ高等師範學校高等師範學校ハ師範學校中學校及ヒ高等女學校ノ教員タルヘキ者ヲ養成スルヲ目的トシ女子高等師範學校ハ師範學校女子部及ヒ高等女學校ノ教員タルヘキ者ヲ養成スルヲ目的トス共ニ東京ニ各一校ヲ設置シ國費ヲ以テ其經費ヲ支辨ス兩校共ニ其學科程度並ニ教科書ハ文部大臣ニ於テ之ヲ定ムルモノトス而シテ官費生徒ノ學費ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ其學校ヨリ之ヲ支給ス師範學校ハ小學校教員タルヘキ者ヲ養成スルヲ目的トス北海道各府縣ニ各一校若クハ數校ヲ設置ス而シテ其經費ハ北海道沖繩縣ヲ除ク外府縣ノ負擔ニ屬ス師範學校ノ學科程度並ニ教科書ハ文部大臣之ヲ定ム

(第五) 實業學校

之ニ關スル規定ハ即チ實業學校令是ナリ同令ニ依レハ實業學校トハ工業農業商業等ノ實業ニ從事スル者ニ須要ナル教育ヲ爲スヲ以テ目的トスルモノニシテ其種類ハ(一)工業學校(二)農業學校(三)商業學校(四)商船學校(五)實業補習學校ノ五箇トス露業學校山林學校獸醫學校及ヒ水產學校ノ如キハ農業學校ト看做サルルモノトス而シテ徒弟學校ハ工業學校ノ一種類ナリ其設置ハ即チ府縣ノ隨意事務ニ屬實業學校ハ府縣ニ於テ之カ設置ノ義務ナシ其設置ハ即チ府縣ノ隨意事務ニ屬ス然レドモ文部大臣ニ於テ其設置ヲ命シタルトキハ其費用ヲ以テ之ヲ設置スルノ義務ヲ生スルナリ北海道府縣郡市町村北海道沖繩縣ノ區ヲ包含ス又ハ町村組合及ヒ私人ハ何レモ同令ノ規定ニ準據シテ實業學校ヲ設置スルコトヲ得而シテ其設置廢止ハ其ニ監督官廳ノ認可ヲ要ス

實業學校ノ編制設備學科程度並ニ教員ノ資格ハ文部大臣之ヲ定ム實業學校ハ授業料ヲ徵收スルヲ得ルコト中學校ニ同シ

(第六) 高等學校 高等學校令是ナリ同令ニ依レハ高等學校ハ專門學科ヲ教授之ニ關スル規定ハ高等學校令是ナリ同令ニ依レハ高等學校ハ專門學科ヲ教授

スルヲ目的トス但帝國大學ニ入學スル者ノ爲メニ豫科ヲ設置シテ入學ノ豫習ヲ爲ナシムルコトヲ得ルモノトセリ高等學校ノ學科及ヒ講座ノ數ハ文部大臣之ヲ定ム高等學校ノ費用ハ國ニ於テ之ヲ負擔ス

(第七) 帝國大學 帝國大學令是ナリ帝國大學ハ國家ノ須要ニ應スル學術技藝ヲ教授シ及ヒ其蘊奧ヲ攷究スルヲ以テ目的トス帝國大學ハ大學院及ヒ分科大學ノ二ヨリ構成セラル大學院ハ學術技藝ノ蘊奧ヲ攷究シ分科大學ハ學術技藝ノ理論及ヒ應用ヲ教授スル所トス分科大學ハ法科醫科工科文科理科農科ノ六大學ニ區分セラル各大學ニ講座ヲ置キ教授助教授又ハ講師ヲシテ之ヲ擔任セシム講座ノ種類及ヒ其數ハ勅令ヲ以テ定メラル又大學ノ費用ハ國ニ於テ之ヲ負擔スルモノトス

(第八) 私立學校 私立學校令是ナリ私立學校ハ國家ノ須要ニ應スル學術技藝ヲ教授シ及ヒ其蘊奧ヲ攷究スルヲ以テ目的トス私立學校ハ大學院及ヒ分科大學ノ二ヨリ構成セラル各大學ニ講座ヲ置キ教授助教授又ハ講師ヲシテ之ヲ擔任セシム講座ノ種類及ヒ其數ハ勅令ヲ以テ定メラル又大學ノ費用ハ國ニ於テ之ヲ負擔スルモノトス

私立學校ニ關シテハ從來何等ノ規定ナカシモ改正條約ノ實施其他實際上取締ヲ要スルノ點ヨリ之カ規定ヲ設タルコトヲ爲レリ明治三十二年八月勅令第

三百五十九號私立學校令是ナリ私立學校ハ原則トシテ地方長官ノ監督ニ屬シ其設立ハ監督官廳ノ認可ヲ要シ廢止若クハ設立者ノ變更ハ之ヲ監督官廳ニ開申スルコトヲ要ス而シテ法定ノ事由アルモノハ私立學校ノ校長又ハ教員ト爲ルコトヲ得ス又右法定ノ事由ニ該當セサル者ト雖モ校長若クハ學校ヲ代表シ又ハ校務ヲ掌理スル者ト爲ルニハ監督官廳ノ認可ヲ受クルコトヲ要スルナリ私立學校ノ教員ハ相當學校ノ教員免許狀ヲ有スル者ヲ除ク外其學力及ヒ國語ニ通達スルコトヲ證明シ小學校官立學校及ヒ小學校ニ類スル各種學校ノ教員ニ在リテハ地方長官其他ニ在リテハ文部大臣ノ認可ヲ受ケサルヘカラス但專ラ外國語專門學科若クハ特種ノ技術ヲ教授スル教員及ヒ專ラ外國人ヲ入學セシムル爲メニ設立シタル學校ノ教員ハ國語ニ通達スルコトヲ要セス此等ノ認可ハ當該學校ニ在職間ニ限り有效ノモノナリ又若シ監督官廳ニ於テ其提出セラレタル證明ヲ不充分ト認ムルトキハ本人ノ志望ニ依リ試驗ヲ施スコトヲ得私立學校ニ對スル行政權能ハ(一)教員認可取消(二)設備授業其他ノ事項ニ對スル變更命令ヲ發スルコト(三)法令ノ規定ニ違反シテ安寧秩序ヲ紊亂シ又ハ風俗

ヲ擾亂スルノ虞アルトキハ六箇月以上規定ノ授業ヲ爲ササルトキ(ニ)監督官廳ノ命令ニ違反シタルトキニ於テ學校ノ閉鎖ヲ命スルコト等ナリ以上述ベタル所ハ現行各種學校令ヲ大要ナリ此等各種學校ノ教員ハ或ハ官吏ナルアリ或ハ官吏ノ待遇ヲ受ケルモノアリ或ハ私立學校ノ如キ全然私人ナルアリ其官吏ナル者ノ任用ハ多クハ文官任用令明治三十二年三月勅令第六十一號第五條ニ依リ高等官ニ在リテハ文官高等試驗委員判任官ニ在リテハ文官普通試驗委員ノ銓衡ヲ經ルモノナリ官吏ノ教員ヲ有スル學校ハ總テ國ノ設立ニ係ルモノニシテ所謂官立學校是ナリ次ニ官吏ノ待遇ヲ受ケル者ニシテ判任官ニ相當スル者ノ任用ハ概テ地方長官之ヲ行フモ其高等官ニ相當スル者ニ在リテハ文部大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ任用スルヲ例トス此等ノ官吏待遇ヲ受ケル者ハ概テ公立學校ノ教員ナリ公立學校ノ教員ハ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外教員免許狀ヲ有スルコトヲ必要トス教員免許狀ヲ授與スルハ(一)檢定ニ依ラサルモノアリ(二)檢定ニ依ルモノアリ(三)其檢定ニ依ラサルモノハ教員養成ノ目的ヲ以テ設置シタル官公立學校ノ卒業者ナリ(四)其檢定ニ依ルモノニ

付タハ二種ノ細別アリ即チ(イ)試驗ヲ用フルモノ(ロ)試驗ヲ用ヒサルモノ是ナリ
其他教員ニ關スル些末ノ法規ハ多クハ文部省令ヲ以テ規定セラレタリ

第二項 著作權保護ニ關スル規定

著作トハ智能ノ作用ニ依リテ產出セラレタル有形無形ノ事業ヲ謂フ著作ニハ
工業的ノモノアリ學術的ノモノアリ美術上ノモノアリ然レトモ工業ニ關スル
著作ハ通常之ヲ著作ト稱セズ發明又ハ意匠ノ案出ト稱シ特許法及ヒ意匠法ニ
依リテ保護セラル故ニ茲ニハ專ラ學術上及ヒ美術上ノ著作ノ保護ニ關シテ述
ヘントス

著作權保護ニ關スル我國從來ノ規定ハ版權法、脚本樂譜條例及ヒ寫真版權條例
ニシテ其保護ノ目的ノ範圍ハ稍ヤ狹隘ナリシノミナラス萬國同盟ノ加入ニ依
リテ此等ノ法律ヲ改正スヘキ必要ニ迫リタルヲ以テ明治三十二年三月法律第
三十九號ヲ以テ著作權法ヲ制定セリ今左ニ同法ノ要領ヲ掲クヘシ

著作ノ何タルハ同法之ヲ定義セスレ同法全般ヲ涉獵シテ始メテ分明ト爲ル

ヘキ事項ナルヲケレハナリ然レトモ同法第一條ハ文書、演述、圖畫、彫刻、模型、寫真
其他文藝、學術又ハ美術ノ範圍ニ屬スル著作物ノ著作人ハ其著作物ヲ複製スル
ノ權利ヲ專有スト規定シ文藝、學術ノ著作物ノ著作權ハ翻譯權ヲ包含シ各種ノ
脚本及ヒ樂譜ノ著作權ハ興行權ヲ包含スト規定セリ複製トハ重複シテ同一ノ
著作ヲ複製スルノ意義ニシテ著作權ノ内容ハ複製權ナリ而シテ此複製權ハ獨
リ著作人ノ專有シ他人ハ之ヲ侵犯スルコトヲ得ス若シ之ヲ侵犯スルトキハ
單ニ損害賠償ノ責ニ任スヘキノミナラス其偽作者及ヒ情ヲ知リテ偽作物ヲ發
賣シ又ハ頒布シタル者ハ五十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處セラル

著作權ハ此ノ如ク著作人ニ對シテ保護セラルト雖モ之ヲ以テ永久ノ權利ト爲
ストキハ智識ノ普及ヲ阻碍シ公益ヲ害スルニ至ルヘキヲ以テ一定ノ著作權ニ
ハ期限ヲ附シテ之ヲ公行セシムヘキモノトセリ著作權ハ一種ノ財產權ナルコ
ト疑ヲ容レス其性質ハ最モ特許權又ハ意匠專用權ニ似タリ故ニ法律ハ著作權
ノ相續及ヒ讓渡ヲ爲スコトヲ得ルコトヲ認メタリ著作權ハ其著作ヲ爲シタル
事實ニ依リテ發生スルモノニシテ是レ恰モ特許ヲ受クルノ權カ發明ニ依リテ

生スルト同様ナリ然レトモ著作權ハ特許權ノ如ク官廳ノ處分ニ依リテ生スルモノニ非ス此點ニ於テ著作權ハ特許權ト差異アリ然レトモ發行又ハ興行シタル著作權ヲ以テ第三者ニ對抗セント欲スルニハ登録ヲ受クルコトヲ要ス其登録ヲ受タルニ非サレハ偽作ニ對スル民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得タルナリ著作權法ハ寫眞著作權ニ關シテ特ニ明文ヲ以テ別段ノ規定ヲ設ケタリ即チ寫眞著作權ハ十年間ノ經過ニ依リテ消滅スルモノトセリ蓋シ寫眞著作權ハ勞力ノ程度輕少ナルヲ以テ其他ノ著作權ノ如ク之ヲ保護スルヲ必要トセサレハナリ外國人ノ著作權ニ付テハ條約ニ別段ノ明文アル場合ヲ除クノ外同法ノ規定ヲ適用シテ之ヲ保護ス但著作權保護ニ關シ條約ニ規定ナキ場合ニハ帝國ニ於テ始メテ其著作物ヲ發行シタル者ニ限ルモノト爲セリ即チ條約ニ明文アル場合ハ之ニ依リテ外國人ノ著作權ヲ絕對的ニ保護セサルヘカラスト雖モ若シ條約ニ明文ナキ限ハ其發行カ帝國内ニ在ルモノニ限ルモノト爲セリ惟フニ此但書ハ我國現時ノ情況ニ鑑ミ條約ニ抵觸セサル範圍内ニ於テ外國人ノ著作權ニ制

第三項 宗教ニ關スル規定

宗教ト國家トノ關係ハ各國其固有ノ歷史上ノ發達ヲ有シ其因襲スル所尚ニ深遠ナリ今左ニ既往及ヒ現在ニ於ケル制度ノ主要ナル區別ヲ示スヘシ
(一) 政教一致ノ制度 (イ) 此制度ノ實質ハ政治ト宗教トハ其機關ヲ異ニスト雖モ共同ノ最高機關ヲ有シ其機關ハ結局政教兩ツナカラ之ヲ統括スルモノナリ (ロ) 此制度ハ種類ニ二アリ即チ國教制度ト敎國制度是ナリ國教制度トハ信教ヲ以テ國務ノ一部ト認ムルモノニシテ即チ敎會ヲ以テ國家ノ營造物ト爲スノ制ナリ敎國制度ハ國家ヲ以テ敎會ノ營造物ト看做スモノニシテ國家ハ敎會ニ對シテ宗教上ノ任務ヲ有スルモノトスルナリ

(二) 政教分離ノ制度 此制度ハ實質ハ信教ヲ以テ全ク個人ノ私事ト看做シ國

家ノ諸制度ハ總テ宗教ノ關係ヲ離レテ之ヲ定メ國家ノ教會ニ對スルハ一般ノ結社ト異ナルナキモノナリ

(三) 教會公認ノ制度 此制度ハ沿革上ノ理由ニ因リ二三ノ重要ナル教會ヲ公認シテ之ニ數多ノ特權ヲ與ヘ同時ニ特別ノ監督ニ服セシムルモノナリ

前述三種ノ制度ノ中立憲國ハ第二ニ非スハ即チ第三ノ制度ニ依リテ自己ト宗教トノ關係ヲ定メサルヘカラス何トナレハ第一ノ制度ハ何レモ多少信教ノ自由ヲ阻害スルヲ以テナリ北米合衆國、白耳義及ヒ伊太利ハ原則トシテ第二種ノ主義ヲ採リタリ然レトモ數百年ノ歷史上ノ沿革ニ依リ耶蘇教ト國家トハ離ルヘカラサル關係ヲ有スルヲ以テ純正ニ此原則ヲ實行スルコトヲ得ス即チ或ハ(一)法令ヲ以テ日曜日ノ勞動又ハ遊樂ヲ禁シ或ハ(二)宗教上ノ儀式ヲ國家ノ制度ニ加ヘ或ハ(三)僧侶ノ俸給ヲ國庫ヨリ支出スルカ如キ是ナリ獨逸ハ半ハ宗教公認ノ制度ヲ採ルモノニシテ公認セラレタル宗教團體ハ(一)特權トシタイ國家ノ補助ヲ受ケ(二)議會ノ議員ヲ選出シ(三)國家ノ權力ノ一部ヲ承繼シ(四)僧侶ハ國家官吏ノ待遇ヲ受クルカ如キ(二)特別ノ監督トシテハ(イ)教會ノ命令ヲ審查シ其

發布ヲ認可シ(ロ)僧職ノ設置及ヒ任免ニ關スル事項ニ干渉シ(ハ)其他教會ノ行政ニ對スル各種ノ監督ヲ行フナリ其他公認セラレサル宗教團體ト雖モ或ハ私法上ノ法人ト認メラレ二三ノ特權ヲ有スルモノアリ佛英ノ制度モ大抵獨逸ノ制度ト相似タリ

一步ヲ進メテ我國現行ノ宗教制度ノ要綱ヲ説明センニ我現行制度ハ最モ不備ニシテ前述各種制度ノ何レニ屬スルヤヲ明言スルヲ得スト雖モ先ツ公認制ニ近キモノト見テ可ナランカ

神社ノ制度ハ皇國ノ建國ト相離ルヘカラサル關係ヲ有シ國家ヲ宗祀ニ奉仕スルヲ目的トスルモノニシテ之ヲ宗教ト稱スルハ允當ヲ缺クモノアリ現ニ內務省ニ於テモ雖ニ社寺局ヨリ神社局ヲ割キテ別ニ宗教局ヲ設置セルヲ以テ見ルモ明カナリ然レトモ最初ハ神社ハ佛教ト相混同シタルヲ以テ明治元年三月二十八日及ヒ閏四月四日太政官達ヲ以テ神佛混淆廢止處分方ヲ發布セリ是レ最重要ナル規定ニ屬スルヲ以テ其全文ヲ左ニ掲ク

一 中古以來某權現或ハ牛頭天王ノ類其外佛諸ヲ以神號ニ相稱候神社不少

候何レモ其神社之由緒委細ニ書付早早可申出候事
但勸祭之神社 御宸翰 勸額有之向ハ是又可伺出其上ニテ御沙汰可有之
候其餘之社ハ裁判領主支配頭等へ可申出候事
一 佛像ヲ以神體ト致候神社ハ以來相改可申候事
附本地杯ト唱へ佛像ヲ社前ニ掛或ハ鋸口梵鐘佛具等之類差置候分ハ早早
取除キ可申事以上明治元年三月二十八日
今般諸國大小ノ神社ニ於テ神佛混淆ノ儀ハ御廢止ニ付相成候ニ別當社僧ノ
輩ハ還俗ノ上神主社人等ノ稱號ニ相轉神道ヲ以勤仕可致候若亦無據差支有
之且ハ佛教信仰ニテ還俗ノ儀不得心之輩ハ神勸相止立退可致候事以上明治
元年閏四月四日
此等ノ令達ニ依リテ神社ト佛閣トハ區別セラルルニ至リ爾來其主管ニ於テモ
概テ之ヲ別異ニスルノ方針ヲ探リ今日ニ至リテハ神社ハ全然宗教トハ相關セ
ナルモノト爲レリ
神社ト神道トハ全ク別種ノモノニシテ所謂神道ナルモノハ後ニ述フルカ如ク

宗教ノ範圍ニ屬スルモノナリ明治十七年八月ノ布達ハ神道及ヒ佛道ニ關スル
法規中其主要ナルモノノ一ナルヲ以テ左ニ其要綱ヲ述フ
(一)各宗派ハ妄ニ分合ヲ唱へ或ハ宗派ノ間ニ爭論ヲ爲スヘカラス(二)管長ハ神
道各派ニ一人佛道各宗ニ一人ヲ定ム(三)管長ヲ定ムヘキ規則ハ神佛各其
宗教規則ニ由リテ之ヲ一定シ內務大臣ノ認可ヲ受クヘシ(四)管長ハ各其立教
開宗ノ主義ニ由リテ次ノ條規ヲ定メ內務大臣ノ認可ヲ受クヘシ其條規トハ
神道管長ニ在リテハ(イ)教規(ロ)教師タルノ分限及ヒ其稱號ヲ定ムルコト(ハ)教
師ノ等級進退ノ事佛道管長ニ在リテハ(イ)宗制(ロ)寺法(ハ)僧侶並ニ教師タルノ
分限及ヒ其稱號ヲ定ムルコト(ニ)寺院ノ住職任免及ヒ教師ノ等級進退ノ事(ホ)
寺院ニ屬スル古文書寶物什器ノ類ヲ保存スルコト等ハナリ
此規則ニ由リテ之ヲ觀レハ國家ハ或程度ニ於テ神佛兩道ヲ公認スルモノト謂
フヲ得ヘク又神佛各派ノ管長ハ一定ノ職務ヲ有スル行政機關ニ似タリ而シテ
其職務ヲ執行ハ內務大臣ノ監督ヲ受タルモ其統轄スル宗派ノ神道僧侶ニ對シ
テハ宗教上稍ヤ公權ノ行使ニ類似シタル命令ヲ下スコトヲ得テ稍ヤ自治體ニ

類スルヲ形跡アリ然リ而シテ宗教其モニ對スル政府ノ施設ハ唯宗教團體ノ監督ヲ以テ行政ノ事務ト爲セリコト是ナリ然レトモ單ニ此布達ニ依リテ定メタル制度ノ外觀ヲ以テ我國ノ宗教團體ハ公法人ナリト主張スルコトヲ得サルハ勿論ニシテ將來之ヲ公法人ト爲スヘキモ今ヤ朝野ノ間ニ論争ノ焦點ト爲リ居レリ第十四議會ニ提出セラレタル宗教法案ニ依レハ宗教團體ニハ從來許容シタル範圍内ニ於テ自治能力ヲ認メタリト雖モ權力行爲ハ一切之ヲ認メス純然タル私法人トシテ政府ノ特別ノ監督ノ下ニ立ツヘキコトヲ定メタリ同案ハ遂ニ議決ニ至ラナリシト雖モ宗教上ノ社團及ヒ財團ニ私法上ノ人格ヲ與ヘ法令ニ依リテ必要ナル監督ヲ爲スハ一日ヨリ急ナルヲ以テ明治三十三年八月一日內務省訓令第三十九號ハ宗教ノ宣布又ハ宗教上ノ儀式執行ヲ目的トスル社團又ハ財團ヲ法人ト爲ス場合ニ關スル手續ヲ規定シ民法施行法第二十八條ニ依リ停止ヲ解キタルカ如シ宗教ノ間ニ宗教團體ノ手續ヲ規定シ民法施行法第二十以上ハ主トシテ神佛兩道ニ關スル現行規定ノ大要ナリ神佛以外ノ宗教ニ關シテハ從來何等ノ規定ナカリシト雖モ明治三十二年七月二十七日內務省令第四

十一號ハ之ニ關スル規定ヲ定メ(一)宗教ノ宣布ニ從事セントスル者ハ(イ)宗教名稱(ロ)布教ノ方法ヲ記シタル書類ニ履歷書ヲ添ヘ地方長官ニ届出ツヘク(二)宗教ノ用ニ供スル爲メ堂宇會堂說教所又ハ講義所ノ類ヲ設立セントスル者ハ(イ)設立ヲ要スル理由(ロ)宗教ノ名稱ハ管理及ヒ維持ノ方法ニ擔任布教者ヲ置クトキハ其資格及ヒ選定方法(キ)其他法定ノ事項ヲ具シ地方長官ノ許可ヲ受クヘキモノトシ耶蘇教其他ノ宗教ニ對スル取扱法ノ端緒ヲ開ケリ

第四項 古社寺ニ關スル保存規定

我國ノ古社寺ハ戰亂ノ時代ニ於テ概テ中立ノ位置ヲ保チ克ク其不可侵ノ狀態ヲ保チタルノミナラス文學美術ノ保存及ヒ獎勵ニ關シテ間接直接ニ其效蹟ヲ貽シタルモノナリ然ルニ此等ノ社寺モ維新以來一時荒廢ニ歸セントシタレトモ今ヤ文學上及ヒ美術上ニ於テ大ニ其價值ヲ認メラルモ至レリ然レトモ古社寺ノ中或ハ實力充實セサルカ爲メ其他管理者ノ適任ナラサル等ノ原因ヨリシテ其建造物及ヒ寶物等ヲ散逸毀壞ニ委ヌルモノナキヲ保チ難キヲ以テ國家

ハ其教化ニ關スル行政ノ一部トシテ古社寺保存ノ行政ヲ行フニ至レリ之ニ關
スル行政法規ハ古社寺保存法及ヒ施行勅令ニシテ之ヲ管掌スル行政機關ハ內
務大臣古社寺保存會及ヒ地方長官ナリ今左ニ其法規ノ要領ヲ掲クベシ
古社寺ニシテ其建造物及ヒ實物類ヲ維持修理スルコト能ハサルモノハ保存金
ノ下付ヲ內務大臣ニ請求スルコトヲ得ルモノナリ然リ而シテ國費ヲ以テ補助
保存スヘキモノハ內務大臣ハ古社寺保存會ニ諮詢シテ歷史上ノ證據、由緒ノ特
殊又ハ製作ノ優秀ニ付キ之ヲ定メ其建造物及ヒ實物ノ修理ハ地方長官ヲシテ
指揮監督セシム

前項ニ依ルモノノ外社寺ノ建造物及ヒ實物ニシテ特ニ歴史ノ證據又ハ美術ノ
模範ト爲ルヘキモノハ古社寺保存會ニ諮詢シ內務大臣ニ於テ特別保護建造物
又ハ國寶ノ資格アルモノトシ之ヲ處分シ又ハ差押スルコトヲ禁シ又公開ノ展
覽場ニ出陳スルニモ內務大臣ノ許可ヲ得セシム此特別保護ノ建造物又ハ國寶
ハ神職若クハ住職之カ監守ノ責ニ任シ內務大臣ノ監督ニ服スヘキモノナリ
國寶ハ祭典法用ニ必要ナルモノヲ除クノ外內務大臣ノ命アルトキハ公益ノ必

要上之ヲ官立又ハ公立ノ博物館ニ出陳スルノ義務アリ而シテ此義務ヲ履行シ
タル社寺ニハ命令ノ定メタル標準ニ依リ國庫ヨリ補給金ヲ支給セラル

第六款 恤救ニ關スル行政

訴フル所ナキノ窮民ヲ恤救スルハ國家ノ當ニ爲スヘキ所ナリ左ハ諸國ニ於
テモ皆此目的ヲ以テ多少ノ規定ヲ設ケサルモノナシ恤救行政ノ根據ハ私人ノ
力ノ及ハサル範圍ニ於テ其身體及ヒ精神上ノ利益幸福ヲ保護増進スル助長ノ
目的ト窮民ハ住往公共ノ安寧又ハ私人ノ財產ニ危害ヲ及ボスノ虞アルヲ以テ
之ヲ防止スル保安警察ノ目的トノ二ニ在リ然レトモ蓋ニ窮民ヲ救恤スルハ却
テ其自助ノ精神ヲ沮喪セシムルコトナシトモサルヲ以テ恤救行政ハ須ラク(一)
他ニ窮民ヲ養フ義務ヲ有スル者ナキコト及ヒ(二)窮民カ自己ノ力ニ依リテ除ク
コトヲ得サル事故ニ因リテ困窮ニ陥リタルコトヲ必要トスルヤ深ク論スルヲ
俟タスレト明カナリ(三)國庫ニ於テ救恤ノ費用ヲ負擔スルハ國家ノ義務ナリ
我國ニ於テハ不幸ニシテ未ダ恤救ニ關シテ完備セラル法規アルナシ唯明治四年

六月布告拾兒養育支給方及ヒ明治六年四月布告棄兒養育米及ヒ生年月日檢定方並ニ明治七年第六十二號布告恤救規則アルノミ此等ノ布告ニ依リテ之ヲ觀レハ救貧恤窮ハ人民相互ノ情誼ニ依リテ其方法ヲ設ケタルヲ以テ原則トス故ニ家族内又ハ隣保市町村ニ於テ救助スル者アレハ國家ハ之ヲ補足スルヲ以テ足ルモノトセリ唯癩疾、老衰、又ハ幼年ノ爲メニ産業ヲ營ムコトヲ得タル者ニ限リ國庫ニ於テ其費用ヲ負擔ス又拾兒ニ關シテハ市町村又ハ一箇人ニ於テ拾兒ヲ養育スレハ年齡十三歳ニ達スルマデハ國庫ヨリ一定ノ養育米ヲ給スルモノトセリ以上ノ外地方費目中心ニハ教育費アリ是レ即チ國庫ヨリ給與ヲ得サル場合ニ於テ救貧ニ供用スル爲メニ設ケラルモノニシテ市町村カ隨意事務トシテ行フ行政ノ費用ナリ

行旅病人死亡人ノ取扱ニ關シテハ明治三十二年三月法律第九十三號行旅病人及ヒ行旅死人取扱法ノ規定アリ同法ニ依ル行旅病人トハ步行ニ堪ヘサル行旅中ノ病人ニシテ療養ノ途ヲ有セス且救護者ナキ者ヲ謂フ行旅病人ハ其所在地ノ市町村長ニ於テ之ヲ救護スルノ義務ヲ負ヒ必要ナル場合ニ於テハ市町村長

ハ向ホ行旅病人ノ同伴者例ヘハ小兒ヲモ救護セサルヘカラス救護ノ費用ハ一時其市町村費ノ中ヨリ之ヲ經營ヘ市町村長ニシテ救護ヲ爲シタルトキハ速ニ扶養義務者家族又ハ行旅病人ノ住所地方府縣若シ之ナキトキハ救護ヲ取扱ヲ爲シタル地方府縣ニ通知シ之ヲ引取ラシムルノ手續ヲ爲ササルヘカラス市町村長カ救護ニ要シタル費用ハ被救護者ノ負擔トシ若シ被救護者ヨリ辨償ヲ得サルトキハ其扶養義務者ノ負擔トス若シ之ヨリモ辨償スルヲ得サルトキハ行旅病人ノ住所地方府縣同上ニ於テ之カ負擔ニ任スルモノトス

以上概述シタルカ如ク我國ノ行旅病人死亡人ニ關スル制度ハ稍ヤ完備シタルト雖モ救恤ニ關スル制度ハ最モ不備ナリトス左レハ將來ニ於テハ地方團體ノ實力ニ鑑ミ法律ヲ以テ完全ナル救恤制度ヲ設ケ強制救貧ノ制度ヲ立テサルヘカラサルモノト信ス即チ關係地方團體ヲシテ其必要事務トシテ救貧ノ行政ヲ行ハシムルニ在リ然レトモ救貧ノ制度ヲ立ツルニ先チ其先驅トシテ立法セサルヘカラサルハ人民ヲシテ貧窮ニ陥ラサラシムルノ方法ヲ立ツルニ在リ其方法ハ先ツ少年ニ對シ其勤勉忍耐ノ良風習ヲ強制センカ爲メ懶惰ナル者ヲ懲戒

場又ハ感化院ニ入ルルニ在リ此方法ニ對シテハ我國ニ於テ既ニ其法制ヲ設ケラレタリ(感化院法)次ニ勞働ニ堪ヘサル人民ヲ生セサルニ先ナク或ハ貯蓄又ハ保險ノ制ヲ獎勵又ハ強制シテ豫メ之ニ備ヘシムルニ在リ歐洲ニ在リテハ此種ノ制度ハ較近長足ノ進步改良ヲ見ルニ至リシト雖モ我國ニ於テハ未タ法制ナシ依テ或ハ工場法其他勞働ニ直接又ハ間接ニ關係ヲ有スル法令中漸次之カ規定ヲ設ケタルコトニ注意シ他日完全ナル獨立法律ヲ以テ之ヲ規定スルヲ順序ナリト信ス次ニ勞働ニ堪フル人民中窮乏ニ陷ルヘキ原因ヲ備ヘタル者ニハ其原因ノ自己ノ任意ニ排除シ得ルモノナリヤ否ヤヲ區別シ自己ノ任意ニ排除シ得ル原因ヲ備ヘタル者ニハ或ハ思慮ナキ結婚ヲ制限シ賭博又ハ酒食ヲ戒メ其勞働ノ長風習ヲ養成セシムルカ爲メ或ハ浮浪及ヒ乞巧ヲ罰シ強制勞役ヲ命スルコトヲ得ルヲ法制ヲ定メ其自ラ排除シ得サル原因ヲ備フル者ニ對シテ之ニ勞働ノ材料ヲ給與スルト同等ニ特別ノ保護ヲ與ヘ已ムヲ得スルハ全部又ハ一部ノ生活資料ヲ國家又ハ公共團體ヨリ補給スルノ途ニ出テサルヘカラス

第三章 外務行政

國家ト國家トカ相交涉スルコトハ是レ即チ國際法上ノ現象ニシテ行政法上ノ現象ニ非タルコト固ヨリ論スルヲ埃タス然リ而シテ國際法上ニ於テハ國家ヲ一ノ人格者トシテ取扱フノミニシテ何人カ國法上國家ノ意思ヲ表示スルモノナルヤヲ論セタルナリ故ニ或國家ニ就テ外交權行使者即チ國際上ノ意思主體ノ所在ヲ決定スルニハ必スヤ其國ノ國內法殊ニ憲法ノ條規ニ依ラサルヘカラス我帝國憲法ニ於テハ其第十三條ニ於テ天皇カ帝國ノ外交當事者ナルコトヲ規定シ同時ニ外交ハ天皇ノ大權ニ屬シ事實上國務大臣ノ輔弼ヲ須ツノ外天皇親ヲ獨裁シテ外國ニ臨ムノ主義ヲ明カニセリ此天皇ノ外交大權ニ附隨シテ行ハルル所ノ各種ノ行政ハ之ヲ總稱シテ外務行政ト謂フ

外務行政ノ實質ハ在外帝國臣民ニ對スル行政ニシテ時トシテ在內國外國臣民ニ對スル行政ヲ包括スルコトアリ然レトモ在內國外國臣民ノ地位ハ外國領事裁判所ノ制度アル場合ハ特別ナルモ斯ル制度ナキ場合ニ於テハ外國臣民ノ地

位ハ國法上ノ關係ニ於テ略ホ内國臣民ト擇テ所ナキヲ以テ特ニ之ヲ外務行政ノ章下ニ於テ論スルノ必要ナク總テ内務行政ノ編ニ於テ論スベキモノトス左レハ外務行政ハ一般ノ國家ニ付テハ主トシテ在外國帝國臣民ニ對スル行政ナリト謂フコトヲ得ヘシ

抑モ臣民ニシテ外國ノ領土内ニ在ル者ハ原則トシテ其國ノ統治權ニ服スルモノナリト雖モ國際條約又ハ國際慣例ノ許容スル範圍内ニ於テハ其本國法ノ規定スル所ニ從ヒテ一定ノ事項ハ本國政府ノ支配ノ下ニ立ツモノトス隨テ本國政府ハ外國ノ領土内ニ於ケル帝國臣民ニ對シテ一定ノ行政ヲ行フコトヲ得而シテ此行政機關ハ即チ公使及ヒ領事ニシテ此等ノ機關ヲ監督指揮スル所ノ長官ハ即チ外務大臣ナレハ結局外務行政ハ外務大臣以下ノ外交機關ニ依リテ行ハルル總テノ行政ヲ指稱スルコトト爲ルヘシ

此ノ如ク外務行政ハ外國ニ關係シテ行ハルルモノナリト雖モ其法律上ノ性質ハ毫モ内政ト異ナル所ナキヲ以テ行政法學者中或ハ内務行政ト分離シテ外務行政ノ存立スルコトヲ否認スル者アリ此說タル必スシモ不當ニ非スト雖モ由

本行政各部ヲ論スルニ當リテハ單ニ理論ニ依リテ之カ分類ヲ試ムルコトハ實際上攻學ノ便宜ニ應ギサル迂遠ノ手段ナルコト前ニ既ニ述ヘタル如クナルヲ以テ予輩ハ研究ノ便宜上外務行政ノ一章ヲ設クルハ必スシモ不當ニ非ナルヲ信スルナリ

外務行政ノ機關ハ一方ニ於テハ天皇ノ憲法上ノ外交大權ノ機關タリ外交大權ノ機關トシテ外務大臣公使及ヒ領事官等ハ事實トシテ大權ノ行使ヲ準備シ又ハ大權ヲ執行スルモノナリ然レトモ此等ノ點ハ茲ニ詳論スルノ限ニ在ラス之ニ反シテ外務行政ノ機關トシテ外務大臣以下ノ機關ハ國際條約及ヒ國際慣例ニ從ヒテ其職務ヲ執行セラルヘカラス然レトモ其行動タル國際法カ直接ニ此等ノ機關ヲ拘束スルカ爲メニ然ルモノニ非スシテ專ラ國內法ナル本國法カ命令ニ依ルモノナリ即チ外務行政ノ機關カ國際條約又ハ慣例ノ規定ニ依リテ行政スルハ他ノ一般官吏カ法令ノ規定ニ從ヒテ其職務ヲ執行スルト異ナルナキコトヲ記憶セサルヘカラス

外務行政ノ機關トシテ外務大臣ノ有ル職權ハ外務省官制其他ノ法令ニ定ム

所シテ官制第一條ニ其外務大臣ハ外國關稅行政事務ヲ施行外國幣制及
帝國商事ノ保護及ヒ外國在留帝國臣民ニ關スル事務ヲ管理シ外交官及ヒ領事
官ヲ監督スルモノトモテ又公使ニ關シテ明治三十二年六月勅令第二百八十
號外交官領事官官制其他二三ノ法令ヲ見ルニ而シテ官制ノ規定スル所ニ依
ル公使ニハ特命全權公使辦理公使ノ二種アリ孰レモ勅任ナリ而シテ公使ノ職
務ニ付テハ同勅令ニ何等ノ明文ナシト雖モ孰レモ外國ニ駐在シ外務大臣ノ監
督ノ下ニ本國ノ外交ニ關スル事務ヲ掌理シ及ヒ法令ニ依リテ其權限ニ屬セシ
ムラレタル外務行政事務ヲ管掌スルモノナルコトハ疑ナキ所ナリ次ニ領事官
ノ職務ニ付テハ同令ノ外尙モ明治三十二年三月法律第七十號領事官職務法及
其同三十二年四月勅令第五百十三號領事官職務規則ノ定ムル所ナレハ今左
ニ其大要ヲ摘示スヘシ領事官ニハ總領事領事副領事及ヒ領事補ノ四種アリ孰レ
モ委任ナリ其職務ニ關シテ第一章ニ規定スルハ總領事官ハ其官署ニ於テ
領事官ハ外國ノ領土内ニ駐在シテ其職務ヲ行フモノナルヲ以テ本國法ヲ以テ
如何ナル權限ヲ之ニ與フルモ條約ニ依リテ其權限ヲ外國ニ於テ行使スルコト

ヲ認許セラレタルニ非サレハ之ヲ行フコトヲ得サルハ固ヨリナリ故ニ我國ニ
於テモ領事ノ職務ニ關シテハ各國ト條約ヲ締結シ領事ヲシテ有效ニ之ヲ外國
ノ領土内ニ行使セシムルノ途ヲ啓キタリ是レ即チ所謂領事職務條約ナルモノ
ナリ此領事職務條約ハ固ヨリ國際法上ノモノナルヲ以テ直接ニ領事ニ對シテ
職權ヲ設定スルモノニ非スト解セタルヘカラス左ニ領事官職務法律第三條
ハ領事官ハ法令及ヒ條約ノ規定ニ從ヒテ其職務ヲ行フモノトモテ規定シ條約
ノ規定ニ依リ間接ニ領事官ノ職務ヲ制定セシムルヲ方法ヲ探リタリ然リ而シ
テ此條約ニ依リテ生スル領事官ノ職務ノ執行ニ關シテハ法律ノ規定ヲ要スル
モノアルヘキモノ一法律ヲ發布スルハ煩累アリトシ故ヲ以テ同法第二條ハ條
約中領事官ノ職務ニ關シテ法律ノ規定ヲ要スル事項ニ付キ法律ノ規定ナキトキ
ハ命令ヲ以テ必要ナル規定ヲ設タルコトヲ得ルモノトモテ又條約ニ依リテ間
接ニ領事官ノ職務トシテ定ムラレタル事項モ本國ノ都合ニ依リ之ヲ制限ヲ加
フルコトヲ利トスルコトアルヘキヲ慮リ同法第一條ハ條約中特ニ領事官ノ權
限ニ屬セシメラレタル事項ニ關シテハ法律ニ抵觸セザル限り命令ヲ以テ其制

限ヲ設タルヲ得ルコトヲ規定セリ何レモ委任命令ニ關スル規定トスル其例
今左ニ領事官職務規則ニ依リ一般領事官ノ職務ヲ説明シ次ニ司令及ヒ領事官
職務法ニ基キ領事ノ領事裁判權ニ付テ論スヘシ國ニ對シテ領事官ノ職務
領事官ハ外務大臣ノ指揮監督及ヒ其駐在國ニ在ル帝國公使ノ監督又ハ外務大
臣ノ委任ヲ受ケタル駐在國ノ帝國公使ノ指揮ヲ承ケテ其職務ヲ執行スルモノ
ナリ領事官ノ職務ヲ概言スルハ即チ駐在國ニ在ル日本臣民ヲ保護シ帝國ノ通
商航海ニ關スル利益ヲ維持増進スルニ在リ今其綱目ヲ左ニ列記スヘシ
一 駐在國ニ對スル監視官駐在國カ條約又ハ國際法ニ依リ帝國ニ對シテ負フ
所ノ義務ノ遵守ヲ監視シ日本臣民ノ利益又ハ帝國ノ通商航海ニ關スル利益
ヲ害セラレタル場合ニ於テ駐在國ノ官廳ニ對シテ必要ナル措置ヲ爲スヲ要
スルコト是ナリ
二 日本臣民日本船舶船員ノ保護及ヒ取締 領事官ハ日本臣民船舶船員ノ救
助又ハ取締ヲ爲シ必要ナル措置ヲ爲シ必要ナル認ムルコトキハ日本臣民ノ送還
ヲ日本船舶ノ船長ニ命シ又軍艦船舶ノ乗組員カ脫船シタルトキハ請求ニ因

リ之ヲ復船セシムルニ必要ナル措置ヲ爲スノ義務ヲ有ス
三 日本臣民ノ財產又ハ遺産ノ保護管理 領事官ハ其駐在國ニ在ル日本臣民ノ財產
四 日本臣民名簿ノ登錄 領事官ハ其管轄區域内ニ於ケル日本臣民ノ名簿ヲ
備ヘ居住及ヒ身分ニ關スル届出其他ノ事項ヲ登錄スヘシハ其管轄大臣ハ其
五 公證事務 領事官ハ(一)其駐在國ノ官廳又ハ公署ノ發シタル文書ノ真正ヲ
證明スルコト(二)臣民又ハ外國人ノ申請ニ因リ自ラ知り得タル事實ノ認證ヲ
爲スコト(三)日本臣民ニ旅券ヲ付與シ又ハ其旅券ヲ查證スルコト及ヒ日本ニ
旅行セントスル外國人ノ申請ニ因リ其旅券ヲ查證スルコト(四)臣民又ハ外國
人ノ申請ニ因リ日本人又ハ日本ニ在ル土地ニ關スル法律行為ヲ公證スルコ
ト(五)職務有スル領事官ハ其駐在國ノ官廳又ハ公署ノ發シタル文書ノ真正ヲ
六 勸解又ハ仲裁 領事官ハ日本臣民相互ノ間又ハ日本臣民及ヒ外國人ノ間
ニ生シタル民事上ノ爭論ニ關シ和解ヲ爲サシメ又ハ仲裁ヲ爲スノ職務ヲ有
ス
以上列舉シタル所ハ通常領事官ノ有スル職務ナルカ帝國カ條約ニ依リ領事裁

判權ヲ有スル國ニ駐在スル領事ハ前項ノ外領事官職務法律ノ規定ニ依リ尙本
訴訟事件並ニ非訟事件登錄事務ヲ行ヒ及ヒ領事官職務規則ニ依リ發令權ヲ有
ス今之ヲ左ニ詳述スヘシ
領事官職務規則第五條第六條ハ條約又ハ慣例ニ依リ領事裁判權ヲ行フコトヲ
得ル領事官ハ法令條約及ヒ慣例ニ抵觸セサル範圍ニ於テ訴訟事件非訟事件並
ニ登記事務ニ關シ地方裁判所及ヒ區裁判所ノ職務ヲ行フモノトシ第七條以下
之ニ關スル必要ナル規定ヲ設ケタリ即チ領事官ハ重罪輕罪ヲ審理スルヲ得ル
モ重罪ノ公判ヲ爲スコトヲ得シテ輕罪ノ裁判ニ付テハ豫審ヲ要セサルモ
ノト爲シ重罪事件ニ關シテハ其公判ハ長崎地方裁判所之ヲ管轄スルモノトセ
リ此ノ如ク領事官ノ裁判所ニハ制限アリ加之尙キ最も大ナル制限ト見ルヘキ
ハ領事官ノ管轄ニ屬スル刑事事件ニ關シ國交上必要アルトキハ外務大臣ハ其
事件ヲ管轄スヘカラサルコトヲ領事官ニ命シ且被告人ヲ内地ニ監獄ニ移送セ
シメ内地ノ裁判所ニ審理セシムルヲ得ルコト是ナリ其他忌避回避ニ關スル規
定ハ領事官ニ適用セサルナリ

領事官カ地方裁判所ノ權限ニ屬スル裁判ヲ爲セタルトキハ其裁判ニ對スル控
訴又ハ抗告ハ長崎控訴院之ヲ管轄シ區裁判所ノ權限ニ屬スル事項ノ裁判ニ對
スル控訴又ハ抗告ハ長崎地方裁判所之ヲ管轄ス此點ヨリ之ヲ觀レハ領事官ノ
裁判ハ正シク第一審ニ準スヘキモノナリ
領事官カ裁判ヲ爲スニ當リテハ領事館員又ハ警察官ヲシテ檢事又ハ裁判官ノ
職務ヲ行ハシム若シ書記ノ職務ヲ行ハシムヘキ官吏ナキトキハ在留臣民中ニ
就キ臨時其職務ヲ行ハシムルコトヲ得執達吏ノ職務モ亦領事官又ハ警察官又
ハ領事官ニ於テ適當ト認メタル者之ヲ行フ此等ノ規定ハ一ニ裁判ニ關スル機
關ノ不備ヨリ生スル缺點ヲ補綴スルモノニ外ナラス
右ハ領事官職務法律ニ依ル領事裁判ニ關スル規定ハ網要ナリ其他領事官職務
規則ハ領事裁判ヲ行フ領事ノ特別權限トシテ命令ヲ發スルノ權ヲ認メ此命令
ニハ十圓以內ノ罰金又ハ拘留ノ罰則ヲ附スルコトヲ得ルモノトセリ此命令ニ
對シテ取消ノ處分ヲ行フハ內務大臣ニシテ公使ハ停止ヲ命シテ外務大臣ノ指
揮ヲ缺クコトヲ得此領事ノ裁判カ憲法ニ謂フ司法ナリヤ否ヤハ憲法上研究ス

第四章 院務行政

院務行政ハ帝國議會ノ存在ニ伴ヒテ生ズル國家ノ行政ヲ總稱ス帝國議會ハ憲法ニ規定セラルレタリ國家ノ機關ニシテ其成立組織並ニ權能等ハ憲法ヲ論スヘキ所ニシテ行政法ノ與リ知ル所ニ非ス然レトモ由來行政法ハ國家機關ニ依リテ行ハルル國權ノ活動ヲ論スルモノナレハ帝國議會ノ存在ニ伴ヒテ生ズル各種國權ノ活動ニシテ憲法ノ範圍ニ屬セサルモノハ之ヲ論セサルヘカザサルハ固ヨリナリ故ニ予輩ハ本章ニ於テ主トシテ我帝國ノ兩院制度ノ下ニ於ケル選舉法及ヒ貴族院令並ニ議院法ノ一部ヲ論セントス或ハ說ヲ爲ス者アリ曰タ此等ノ法令ハ皆憲法附屬ノ法令ナルヲ以テ行政法ニ於テ論スヘキニ非スト然レトモ若シ此論者ノ主義ヲ貫徹スルトキハ裁判所構成法、行政裁判法、會計検査院法ノ如ク孰レモ憲法附屬之法律ニ非ズル而シテ此等ノ法令ヲ以テ行政法ニ非ストナル者ハ未ダ尙テ聞カズル所ナリ果シテ然ラバ予輩ハ特ニ院務行政ノ章

第一節 衆議院ノ構成ニ關スル行政

衆議院ハ公選セラレタル議員ヲ以テ之ヲ組織ス而シテ衆議院議員ノ公選ニ關スル法規ハ明治三十三年三月法律第七十三號衆議院議員選舉法是ナリ左ニ其要綱ヲ掲クヘシ

(二) 選舉區域 衆議院議員ハ法律ヲ以テ定メタル選舉區ニ於テ法定ノ員數ヲ

選舉スルモノアリ選舉區ノ制度ニ二種アリ一ハ大選舉區制ニハ小選舉區制ナリ大選舉區制ハ例セテ府縣ニ準スル區域ヲ大選舉區トシ此選舉區ヨリ數名ノ議員ヲ選舉スルモノアリ小選舉區制ハ例セテ一都市ニ準スル區域ヲ一選舉區トシ各選舉區ヨリ一名ノ議員ヲ選舉スルモノナリ此二制度ハ其之ニ應用スル投票法ノ如何ニ依リテ其利害ヲ異ニスルモノナリ小選舉區制ハ自然ノ結果トシテ單記投票法ナラサルベカラズ單雖モ大選舉區制ニ

對シテハ種種ノ方法アリテ各種其利害ヲ異ニセリ我新選舉法ハ從事ノ規定ニ比スレハ大選舉區制ニ依リテ選舉區ヲ定メ單記無記名ノ投票法ニ依リテ議員ヲ選舉セシムルコトモリ此投票法ハ未ダ理想ノモノナリト謂フコトヲ得スト雖モ之ヲ連記又ハ制限連記法ニ比スレハ比較的ニ弊害少キモノニ屬ス選舉區ハ府縣ヲ市部ト郡部トノニ分チ市部ヲ一ノ選舉區トシ又郡部ヲモ一ノ選舉區トシテ定數ノ議員ヲ選出セシムルコトモリ此等ノ選舉區ハ概シテ市町村ノ區域ニ依リ更ニ數多ノ投票區ニ區畫シ市町村長ハ國ノ行政機關トシテ投票管理者ト爲リ投票ニ關スル事務ヲ擔任ス投票區ノ上ニ開票區アリ開票區ハ郡市ノ區域ニ依リテ之ヲ定メ郡市長ハ國ノ行政機關トシテ開票ニ關スル事務ヲ擔任ス而シテ地方長官ハ選舉長ト爲リテ選舉ニ關スル事務ヲ統轄ス

(一) 選舉權及被選舉權 選舉權ハ國民參政權ノ大本ナリ然レトモ一定ノ年齡ニ達セタル者ニハ之ヲ與フルノ限ニ在ラス又選舉區ト一定ノ關係アルニ非サレハ之ヲ與フルヲ得ス而シテ一定ノ恒産アルニ非サレハ之ヲ享有行使

セシメサルヲ利トス故ニ法律ハ(一)年齡(二)選舉區トノ關係(三)財産ノ三點ヨリシテ選舉權ニ制限ヲ附シタリ即チ左ノ要件ヲ具備スル者ニ非サレハ選舉權ヲ有スルヲ得ス

一 帝國臣民タル男子ニシテ年齡二十五年以上ノ者
二 選舉人名簿調製ノ期日前滿一年以上其選舉區内ニ住所ヲ有シ仍ホ引續キ有スル者

三 選舉人名簿調製ノ期日前滿一年以上地租十圓以上又ハ滿二年以上地租以外ノ直接國稅十圓以上若クハ地租ト其他ノ直接國稅トヲ通シテ十圓以上ヲ納メ仍ホ引續キ納ムル者

被選舉權ニ關シテハ必スシモ選舉權ノ如キ制限ヲ置クヲ要セス廣ク衆望ヲ集メタル者ハ財産及ヒ居住ニ關スル要件ナクトモ選舉セラルルコトヲ得即チ年齡滿三十年以上ノ者ハ何人ニテモ被選舉權ヲ有スルナリ以上掲ケタル所ハ總テ原則ノ規定ナリ而シテ法律ハ尙ホ數多ノ例外ノ場合ヲ規定セルモ今之ヲ省略スヘシ

茲ニ一言スヘキハ前述二項ノ規定ニ依リ選出セラルヘキ議員ノ數ト人口總員トノ關係是ナリ議員數ハ舊選舉法ニ於テハ人口十二萬人ニ付キ議員一名ノ比例トシ定員三百人ナリシカ新選舉法ハ市ハ人口三萬人以上十三萬人毎ニ郡ハ人口十三萬人毎ニ議員一名ノ比例トシ各選舉區内ノ有權者ヲシテ之ヲ選出セシムルコトト爲ルヲ以テ累計三百六十九人ヲ選出シ得ルコトト爲レリ

(H) 選舉人名簿 市町村長ハ每年法定ノ時期ニ於テ選舉人ノ氏名官位職業身分住所生年月納稅額及ヒ納稅地ヲ記載シタル選舉人名簿ヲ作成シ町村長ハ一本ヲ郡長ニ送り又郡市町村長ハ法定ノ期間之ヲ公衆ノ縱覽ニ供スルヲ要ス其期間内ニ脱漏又ハ誤載ノ申立アルトキハ郡市長ハ之ヲ決定行政處分ス此決定ニ不服アル者ハ地方裁判所大審院ニ判決ヲ請求スルコトヲ得憲法第六十一條ノ規定ニ照シテ違憲ノ疑ナキニ非ス

縱覽期間ノ經過後町村長ハ其管理ニ屬スル名簿ヲ郡長ニ送付ス郡長ハ之ヲ調査シ其修正スヘキモノハ修正ヲ加ヘ之ヲ町村長ニ送付シ其年ノ名簿ハ其

年ノ十二月二十日ニ於テ確定ヲ告グルモノナリ

(四) 選舉投票及ヒ投票所 選舉ハ投票所ニ於テ投票ニ依リテ之ヲ行フ郡市長

ハ各投票區内ニ於ケル選舉人中ヨリ三人以上五人以下ノ投票立會人ヲ選任シ投票所ニ會合セシメ投票ハ一人一票ニ限リ自ら被選舉人一名ノ氏名ヲ記載シテ投函ス投票用紙ニハ選舉人ノ氏名ヲ記載スルコトヲ得ス即チ單純無記名ノ制度ナリ投票ノ可否ハ投票立會人ノ意見ヲ聽キ投票管理者之ヲ決定ス行政處分ルモノトス

投票管理者ハ投票所ノ秩序ヲ保持シ秩序ヲ紊ル者ヲ投票所外ニ退出セシムルコトヲ得ルノ職權ヲ有シ必要ナルトキハ警察官直ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

我新選舉法ハ以上述ヘタルカ如ク舊選舉法ニ比シテ大選舉區制ヲ採用シ且單記制ヲ決行シテ蓋シ連記制ニ依レハ少數者ノ代表ヲ爲スヲ得サルノミナラス選舉競爭ヲ激烈ナラシメ政黨以外ノ傑士ヲ舉グルヲ得サルヲ以テ政黨ノ發達上ニ利益アルモ國家全般ノ上ヨリ打算シテ其弊ニ堪ヘサルヲ以テ

- ナリ又其無記名制ヲ採用シタルハ人心ノ弱點ヲ庇護シテ公正ナル選舉ヲ爲サシムルノ主旨ニ出ツルモノナリ
- (五) 開票及ヒ開票所 開票ハ各開票區内ニ於ケル選舉人中ヨリ三名以上七名以下ニ於テ地方長官ノ選任シタル開票立會人立會ノ上開票管理者之ヲ公開ス投票ノ效力ハ開票立會人ノ意見ヲ聽キ開票管理者之ヲ決定ス(行政處分開票終リタルトキハ開票管理者ハ其結果ヲ選舉長ニ報告ス)
- (六) 選舉會 選舉會ハ選舉所ノ取締ト同シタル三名以上七名以下ノ選舉立會人立會ノ上前項ノ報告ヲ調査スルモノニシテ選舉長之ヲ公開スルモノナリ其取締ハ投票所ニ於ケルト同シ
- (七) 當選人 有效投票ノ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス然レトモ其投票ノ數ハ必ス其選舉區内ノ議員定數ヲ以テ選舉人名簿ニ記載セラレタル者ノ總數ヲ除シテ得タル數ノ五分一以上ナラサルヘカラス當選人定マリタルトキハ選舉長ハ直チニ之ヲ當選人ニ告知シ當選人之ヲ承諾シタルトキハ地方長

- 官ハ直チニ當選證書ヲ付與シ其氏名ヲ管内ニ告示シ且之ヲ內務大臣ニ報告ス若シ之ヲ辭シタルトキハ得票ノ順位ニ依リ次位者ニ同一ノ手續ヲ爲ス當選人ナキトキ又ハ當選人ノ員數法定ノ數ニ達セサルトキハ地方長官ハ更ニ選舉ヲ行ハシムルモノトス
- (八) 議員ノ任期ハ總選舉ノ日ヨリ四箇年トス
- (九) 選舉訴訟及ヒ當選訴訟 選舉ノ效力ニ關シ異議アル選舉人ハ選舉長ヲ被告トシ控訴院大審院ニ出訴上告スルコトヲ得當選ヲ失ヒタル者當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ當選人又ハ法定ノ場合ニハ選舉長ヲ被告トシ控訴院大審院ニ出訴上告スルコトヲ得
- 以上述ヘタル所ハ總テ衆議院ノ構成ニ關スル國家及ヒ其機關ノ公權及ヒ臣民ノ公權發動ニ關スル條規ニシテ衆議院ノ存在ニ伴ヒテ生スル行政トス
- 第二節 貴族院ノ構成ニ關スル行政
- 貴族院ハ皇族華族及ヒ勅任セラレタル議員ヲ以テ之ヲ組織ス而シテ其組織ニ

關スル法規ハ明治二十二年二月勅令第五號貴族院令明治二十二年六月勅令第七十八號貴族院伯子男爵選舉規則及同年同月勅令第七十九號貴族院多額納稅者議員互選規則ナリ貴族院令ハ法律ニモ非ス又憲法第八條乃至第十條ノ勅令ニモ非ス此等ノモノノ外ニ獨立シタル特種ノ國家命令ナルモノトハ前ニ述ヘタルカ如シ他ハ二勅令モ亦普通ノ委任命令ニ非ス貴族院令ノ委任ニ依ル委任命令ナリ

(一) 組織 貴族院ハ左ノ議員ヲ以テ組織ス

一 皇族ノ男子成年以上ノ者

二 公侯爵ニシテ滿二十五歲以上ノ者

三 伯子男爵ニシテ同爵中ヨリ選舉セラレタル者

四 勳勞又ハ學識アル三十歲以上ノ男子ニシテ勅任セラレタル者

五 各府縣於土地又ハ商工業ニ付キ多額ノ直接國稅ヲ納ル者

官上ノ男子互選ニ當リ勅任セラル者

是ナリ先ツ第一ヨリ述ヘンニ成年以上ノ伯子男爵者ハ各爵間ノ員數ヲ指定シタル勅令ニ從ヒ各其同爵者ノ議員ヲ選舉ス選舉人名簿ハ宮内省爵位局長之ヲ作製管理ス又選舉管理者ハ選舉資格アル者ニ付キ同爵者間ニ於テ各一人ヲ選舉シテ之ニ當ラシム選舉ハ複記記名式ヲ以テ投票ニ依リ之ヲ行ヒ最多數者ヲ以テ當選トス選舉ニ付キ異議アル者ハ貴族院ニ出訴シ貴族院ハ貴族院令第九條ニ依リ之ニ對シテ判決ス行政裁判其他選舉ニ關スル一切ノ規程ハ有爵者間ノ協議ニ依リテ之ヲ定メシムルコトヲ爲リ居リテ同會規程ハ最モ不完備ナリ

次ニ多額納稅者互選規則ヲ述ベンニ選舉人名簿ハ府縣知事之ヲ作製管理シ又選舉ヲ管理ス其他ノ點ハ略ホ前項ニ準スヘキモノナリ

之ヲ要スルニ貴族院ノ組織ニ關スル命令中ニハ行政法規トシテ見ルヘキモノ

甚タ少シト雖モ(一)貴族院選舉ニ關スル判決權(二)選舉ニ關スル法規ノ如キハ正

シク行政法トシテ論スヘキモノナリト信ス

第三節 議院内部ノ行政

帝國議會ノ機能行使ニ隨伴シテ議院内部ニ行ハル行政現象ヲ行政法ニ於テ之ヲ論セサルヲ得ズ之ニ關スル法規ハ即チ明治二十二年二月法律第二號議院法是ナリ今左ニ其要綱ヲ掲ケル

(一) 議院 各議院ハ國ノ行政機關トシテ其議員ニ對シテ懲罰處分及ヒ資格決定ノ處分並ニ請假許可ノ處分ヲ行フ而シテ衆議院ハ議員ノ辭職ニ對スル許可處分ヲ行フ

(二) 議員ニシテ懲罰事犯アルトキハ議長ハ先ツ之ヲ委員ニ付シ審査セシメ議院ノ議ヲ經テ之ヲ宣告ス其懲罰ハ左ノ如シ

(三) 公開シタル議場ニ於テ適當ノ謝辭ヲ表セシメテ罰金ヲ課ス

(四) 公開シタル議場ニ於テ適當ノ謝辭ヲ表セシメテ罰金ヲ課ス

(五) 一定ノ時間出席ヲ停止ス

四 除名

除名ハ出席議員三分二以上ノ多數ヲ以テ之ヲ決ス

議員ニシテ正當ノ理由ナクシテ召集勅諭ニ指定シタル期日後一週日內ニ召集ニ應セサルニ由リ又ハ正當ノ理由ナクシテ會議又ハ委員會ニ出席スルニ由リ若クハ請假ノ期限ヲ過キタルニ由リ議長ヨリ特ニ招狀ヲ發シ其招狀ヲ受ケタル後一週日內ニ仍ホ故ナク出席セサル者ハ貴族院ニ於テハ其出席ヲ停止シ上奏シテ勅裁ヲ請フベク衆議院ニ於テハ除名ノ處分ヲ爲スコトヲ要スルナリ

各議院ハ懲罰ノ處分ヲ爲スノ外衆議院ニ在リテハ議員ノ資格ニ付キ異議ヲ生シタルトキハ特ニ委員ヲ設ケ時日ヲ期シ之ヲ審査セシメ其報告ヲ竣テ資格ノ決定議決ヲ爲スノ權ヲ有ス其貴族院ニ關シテハ前章ニ之ヲ述ヘタルヲ以テ略ス

以上ノ外各議院ハ一週間ヲ超スル議員ノ請假ヲ許可スルハ權ヲ有シ衆議院ハ議員ノ辭職許可權ヲ有ス

(二) 議長 各議院ノ議長ハ其院ノ秩序ヲ維持シ議事ヲ整理シ院外對シテ議院

ヲ代表シ議會閉會ノ間ニ於テモ仍ホ其議院ノ事務ヲ指揮スル職權ヲ有スルモノナルヲ以テ其行政權限ハ最も廣シ今左ニ之ヲ列舉スヘシ
一 議員請暇ノ許可權 各院ノ議長ハ一週間ヲ超エサル期間ニ於テ議員請暇ヲ許可スルコトヲ得

二 關席届ノ受理 各院ノ議員ハ正當ノ理由ヲ以テ議長ニ届出タルニ非テレハ會議又ハ委員會ニ關席スルコトヲ得ス
三 紀律及ヒ警察ニ關スル權限 各議院開會中ノ紀律ヲ維持スルニ必要ナル内部警察ノ權ハ議院法並ニ各院自ラ定ムル所ノ規則ニ從ヒ議長之ヲ施行ス而シテ其議院法中ニ規定アルモノ左ノ如シ
(イ) 議員ニ對スル處分 會議中議員議院法又ハ議事規則ニ違ヒ其他議場ノ秩序ヲ紊ルトキハ議長ハ之ヲ警戒シ又ハ制止シ又ハ發言ヲ取消サシム若シ命ニ從ハサルトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ終ルヲ發言ヲ禁止シ又ハ議場外ニ退去セシムルコトヲ得
(ロ) 會議ニ對スル處分 議場騷擾ニシテ整理シ難キトキハ議長ハ當日ノ

會議中止シ又ハ之ヲ閉止スルコトヲ得
(ハ) 傍聽人ニ對スル處分 傍聽人中議場ヲ妨害ス者アルトキハ議長ハ之ヲ退場セシメ必要ト認ムルトキハ之ヲ警察官署ニ引渡サシムルコトヲ得又傍聽席騷擾ナルトキハ議長ハ總テ傍聽人ヲ退場セシムルコトヲ得
(ニ) 議長ノ院内警察權ノ執行機關ハ別ニ政府ヨリ派出シタル警察官吏トス
(三) 書記官長及ヒ書記官 書記官長ハ議長ノ補助機關トシテ其指揮ニ依リ書記官ノ事務ヲ提理シ公文ニ署名ス書記官ハ議事録及ヒ其他ノ文書案ヲ作リ事務ヲ掌理ス書記官長及ヒ書記官ハ共ニ議院又ハ議長ノ補助機關ニシテ獨立シタル權限ノ主體ニ非ス

第五章 法務行政

法務行政ハ或ハ司法行政トモ謂フ司法ノ意義ニ關シテハ皆テ詳述シタルカ如ク之ヲ實質ノ上ニ求ムルコトヲ得ス然レトモ形式上ニ在リテハ裁判所ニ於テ

行フ民刑事ノ裁判ヲ意味スルモノトス此國家ノ司法公權ノ行使ヲ輔翼シ之ニ直接且必然缺クヘカラサル手段ヲ與フル行政ハ之ヲ稱シテ司法行政ト謂フ故ニ本章ニ於テ論スヘキハ司法權其モノニ非スシテ司法權ノ存立ニ伴ヒテ生スル行政是ナリ詳言セハ國家ノ司法機關ノ組織權限及ヒ之ニ附隨シテ活動スル他ノ機關ノ組織權限並ニ此等ノ司法制度ヲ維持シ監督シ若クハ法令ノ命スル所ニ從ヒテ判事檢事並ニ所部ノ官吏ノ任免進退其他裁判ヲ執行ノ如キ總テ司法權ノ存在ニ伴フ總般ノ行政ヲ法務行政ト謂フ

第一節 裁判所ノ構成ニ關スル行政

裁判所ノ構成ニ關スル法規ハ憲法第五十七條第二項ニ依リテ發セラレタル明治二十三年二月法律第六號裁判所構成法是ナリ今同法ノ綱要ヲ左ニ掲ク
(一) 裁判所及ヒ檢事局 通常裁判所ハ(一)區裁判所(二)地方裁判所(三)控訴院(四)大審院ノ四トス通常裁判所ハ法律ヲ以テ特別裁判所ニ屬セシメタルモノヲ除クノ外汎ク民事及ヒ刑事ヲ裁判スルモノトシ通常裁判所ハ區裁判所ヲ除クノ外

會議制ノ官廳ニシテ數人ノ判事ヲ以テ組織シ各ル部ニ於テ審問裁判スルモノトス
各裁判所ニハ檢事局ヲ附置セラル檢事ハ(一)刑事ニ付キ公訴ヲ起シ其取扱上必要ナル手續ヲ爲シ法律ノ正當ナル適用ヲ請求シ(二)判決ノ適當ニ執行セラルルモノヲ監視シ(三)民事ニ付テハ必要アリト認ムルモノヲ通知ヲ求メ其意見ヲ述フモノトヲ得又(四)裁判所ニ屬シ若クハ之ニ關スル司法及ヒ行政事件ニ付キ公益ノ代表者トシテ法律上其職權ニ屬スル監督事務ヲ行フモノニシテ全然裁判所ニ對シテ獨立ノ地歩ヲ占ムルモノトス
國家ノ司法權ノ運用ハ裁判所及ヒ檢事ノ二ノ機關ニ依リテ行ハルモノナリ此兩機關ハ民事刑事其他法律ニ依リ裁判所又ハ檢事ニ屬スル事件ニ關シ各異ナル分域ニ活動スルモノナリ兩兩唇齒輔車ノ關係ヲ有スルモノナリ其詳細ハ特別法ニ譲リ茲ニ詳論スル限ニ在リ
各種裁判所ハ遞次序列ヲ成シテ其組織及ヒ權限ヲ定メラル即チ左ノ如ク
區裁判所 裁判權ハ單獨判事之ヲ行ヒ輕易ナル民刑非訟事件ヲ掌ル地方裁判

所ハ第一審ノ合議裁判所ニシテ一又ハ二以上ノ民事部、刑事部ヲ設ケ別ニ兼管
判事アリテ各裁判所ノ事務ヲ分掌ス地方裁判所ハ第一審トシテ概テ民事、
刑事ノ事件ヲ審理シ第二審トシテ區裁判所ノ審理シタル事件ノ控訴又ハ抗告
ヲ審理ス控訴院ハ第二審ノ合議裁判所ニシテ都府設ケルコト地方裁判所ニ關
シ控訴院ハ區裁判所ノ審理シタル事件ニシテ地方裁判所ノ判決ヲ經テモ
ノ上告地方裁判所ノ審理シタル事件ノ控訴又ハ抗告ヲ審理ス控訴院ハ第一審
裁判所ナラサル原則トスルモ皇族ニ對スル民事訴訟ニ付テハ第一審ノ裁判
權ハ東京控訴院ニ屬スルモノトス大審院ハ最高ノ裁判所ニシテ終審トシテ控
訴院ノ審理シタル事件ノ上告及ヒ抗告並ニ第一審トシテ特ニ大審院ノ權限ニ
屬セシメラレタル重大事件ヲ終審トシテ審理スルモノナリ其意旨モ
地方裁判所ニ所長控訴院ニ院長大審院ニ院長ヲ置キ其裁判所ノ一般ノ事務ヲ
指揮シ其行政事務ヲ監督セシム又各裁判所ニ附置セラレタル檢事局中地方裁
判所檢事局ニハ檢事正控訴院檢事局ニハ檢事長大審院檢事局ニハ檢事總長ヲ
置キ檢事局ノ事務取扱ノ分配指揮及ヒ監督ヲ行ハシム

(二) 裁判所及ヒ檢事局ノ職員 此職員ハ判事、檢事、裁判所書記、執達吏、廷子、
茲ニハ判事及ヒ檢事ニ付キ説明シ自餘ハ之ヲ省略ス

判事ハ刑法ノ宣告又ハ懲戒ノ處分ニ由ルノ外其意ニ反シテ轉官轉所停職又ハ
減俸セララルコトナシ但豫備判事タルトキ及ヒ補缺ノ必要ナル場合ニ轉所ヲ
命セラルルハ此限ニ在ラサルモノトス判事身體又ハ精神ノ衰弱ニ因リ職務ニ
堪ヘサルニ至リタルトキハ司法大臣ハ控訴院又ハ大審院ヲ總會リ決議ニ依リ
テ之ニ退職ヲ命スルコトヲ得又法律ヲ以テ裁判所ノ組織ヲ變更シ若クハ廢止
シタル場合ニ於テ其判事ヲ補スヘキ關位ナキトキハ司法大臣ハ之ニ俸給ノ半
額ヲ給シテ關位ヲ待タシムルコトヲ得ルノ職權ヲ有ス
檢事ハ其事務ヲ行フニ付キ上官ノ命令ニ從ヒ及ヒ下級ノ司法警察官ヲ指揮ス
檢事ハ裁判所ニ對シ獨立シテ事務ヲ行フモノニシテ如何ナル方法ヲ以テスル
モ判事ノ裁判事務ニ干渉シ又ハ裁判事務ヲ取扱フコトヲ得タルモノナリ檢事
ハ其職務ノ性質及ヒ其法律上ノ位置全然普通ノ行政官ト異ナルコトナシ左
レハ檢事ノ身分保障ニ付テハ憲法中何等モ規定ナキモ構成法ニ於テハ略ホ判事

一 官吏ノ職務ヲ取扱ヘキハ十分ニ取扱ヒタル事務ニ付キ其注意ヲ喚起シ並ニ適當ニ其事務ヲ取扱フヘキ由トテ之ニ訓令スル由ト辦事規則ニ監督官ハ
二 官吏ノ職務上ト否トラ問ハヌ其地位ニ準適當ナル行狀ニ付キ之ヲ報告
三 是ナリ而シテ此等ノ監督ニテ尙ホ及バサル者ニ對シテハ懲戒法ニ從ヒ之ヲ懲
戒ス判事ノ懲戒ニ關シテハ判事懲戒法ニ之ヲ定ム即チ判事職務上ノ義務違
背シ又ハ職務ヲ怠リ若クハ官職上ノ威嚴又ハ信用ヲ失フヘキ所爲アリタリ
キハ懲戒裁判所ノ裁判ヲ以テ之ヲ懲戒ス懲戒裁判所ハ各控訴院及ヒ大審院ニ
設置セラルルモノニシテ控訴院ニ於テハ院長ヲ加ヘ其院ノ判事五名ヲ以テ之
ヲ組織シ檢事長ハ檢事ノ職務ヲ行ヒ大審院ニ於テハ院長ヲ加ヘ其院ノ判事七
名ヲ以テ組織シ檢事總長檢事ノ職務ヲ行フ而シテ懲戒裁判所ノ判事ハ各院長
毎年度長ト協議シ豫メ之ヲ定出ルモノナリ懲罰又ハ減俸三轉四停職
(五免職)ノ五種トス又ハ不審ノ注罪ノ發見ニ至リ或モ罷免ノ命ニ至ル者ハ附
辯護士ハ其所屬地方裁判所毎々辯護士會ヲ設立シ其所屬地方裁判所檢事正ノ監

督ヲ受テ辯護士ハ辯護士會ニ加入シタル後ニ非テハ職務ヲ行フコトヲ得ス
 辯護士會ハ其會則ヲ定メ檢事正ヲ經由シテ司法大臣ハ認可ヲ受ケルコトヲ要
 ス會則ニハ會長副會長常議員ノ選舉職務辯護士ノ風紀ヲ保持スル規定並ニ附
 金手數料ニ關スル規定其他總會常議員會ニ關スル規定ヲ設ケタルヲ要シ檢事正
 ハ辯護士會ノ會場ニ出席シ又ハ其結果ヲ報告セシムルノ權ヲ有ス辯護士會ノ
 會議ニシテ法令及ヒ會則ニ違フモノハ司法大臣ハ其議決ヲ無効トシ又ハ其議
 事ヲ停止セシムルコトヲ得
 辯護士ニシテ法令又ハ會則ニ違反スルトキハ會長ハ常議員會又ハ總會ノ決議
 ニ依リ懲戒ヲ求ムル爲メ之ヲ檢事正ニ申告ス檢事正ハ會長ノ申告ニ依リ又職
 權ヲ以テ其懲戒訴追ヲ檢事長ニ請求ス其懲戒事件ニ付テハ管轄控訴院ニ於テハ
 懲戒裁判所ヲ開テ懲戒罰ハ(一)譴責(二)通科(三)停職(四)除名ノ四種トシ懲戒處分ニ
 付テハ判事懲戒法ノ規定ヲ準用ス(次は報載無シ)又懲戒ハ判事會
 (三) 權限裁判 裁判所ノ權限ニ關スル上級裁判所ノ判決ニ服スルコトハ前ニ
 權限爭議ノ章ニ於テ述ヘタル所ナルヲ以テ茲ニハ之ヲ略ス

第三節 裁判ノ執行ニ關スル行政

裁判所ノ爲シタル裁判其モノハ形式上所謂司法ニ屬スルモ裁判ノ執行ハ實質形式共ニ行政事項トス然リ而シテ民事裁判ノ執行ニ關シテハ民事訴訟法中ニ之ヲ規定シ別ニ獨立シタル學科ヲ爲セルヲ以テ茲ニ之ヲ述ベス其刑事裁判ノ執行ニ關スルモノハ刑事訴訟法ノ規定ノ外別ニ監獄則明治二十二年七月勅令第九十三號ヲ定メタル茲ニハ監獄行政ノ大要ヲ說述スベシ

(一) 監獄ノ構成ニ監獄ヲ分テ六種トシ其種類ニ從ヒテ拘禁スル者ヲ異ニス即チ左ノ如シ

- 一 集治監 徒刑流刑及ヒ舊法懲戒終身ニ處セラレタル者ヲ拘禁ス
- 二 假留監 徒刑流刑ニ處セラレタル者ヲ集治監ニ發遣スルマテ拘禁ス
- 三 地方監獄 拘留禁錮禁獄懲役ニ處セラレタル者及ヒ婦女ニシテ徒刑ニ處セラレタル者ヲ拘禁ス但警察署内ノ留置場ハ換刑ニ依ル禁錮及ヒ拘留ニ處セラレタル者ヲ拘禁スルコトヲ得

四 拘留監 刑事被告人ヲ拘禁スルモノ

五 留置監 刑事被告人ヲ一時留置スルモノ

六 懲治場 不論罪ニ係ル幼者及ヒ癡狂者ヲ懲治スルモノ

以上ノ諸監獄中從前ハ集治監及ヒ假留監ヲ除キ其他ハ總テ地方費ヲ以テ之ヲ支持シ來リシモ獄政ノ統一ヲ保チ刑苦ノ均一ヲ期スル實際上ノ必要ト國家ノ刑罰權ノ執行ヲ地方費ニ依頼スルハ最モ不當ナリトノ理論上ノ必要ト相合シテ茲ニ明治三十三年一月法律第四號ヲ以テ府縣監獄費及ヒ府縣監獄修繕費國庫支辨法ノ發布ヲ見ルニ至リ監獄ハ總テ國費ヲ以テ維持セラルコト爲レリ

集治監假留監ハ東京府下宮城縣下福島縣下及ヒ北海道ニ之ヲ置キ其他ノ監獄ハ道廳各府縣ニ之ヲ置キ其經費ハ該管官廳ヨリ支拂フモノナリ

監獄ノ職員ハ典獄監獄書記看守長ニシテ典獄ニ委任其他ハ判任ナリ

(二) 監獄行政 國入監者及ヒ民衆刑罰ノ爲メニ留置スル者ハ其刑罰ノ執行ニ關シテ入監者新入監スル者アルトキハ典獄ハ令狀宣告書執行指揮書其他適

一 法ヲ文書ニ査閱シタル後ニ非サレハ之ヲ收容スル所ヲ得ル其由
二 監房ニ囚人刑事被告人ハ男女罪質年齡ニ從ヒテ別異ノ監房ニ收容スル
三 懲治人ハ其年齡ニ從ヒテ別異ニ拘禁スルモノアリ
四 三 作業ヲ定メ役囚ノ作業ハ刑名罪質年齡技能將來ノ生計等ヲ斟酌シ各自體
力ニ應ジテ之ヲ科ス無定役囚雖監獄署内ニ於テ自ラ作業ヲ爲サン
請フトキハ之ヲ許シ作業ノ種類ハ典獄之ヲ指定ス刑事被告人モ亦之ニ準
シテ之ヲ許ス
五 役場ハ男女ノ別ヲ嚴隔シ向ホ定役囚無定役囚懲治人ノ役場ハ各別ニ之ヲ
區別シ其中ニ就テ丁年以上ノ者ト未成年者トヲ區別スルヲ要ス
六 四 監内警察 監内ノ警察ハ典獄其責ニ任ス今左ニ監獄則ニ規定シタル監
内警察ノ二三ヲ例示スル(イ)囚人及ヒ懲治人ノ發シ又受スル信ヲ檢閱
六 及ヒ發送又ハ受信ノ許否ヲ爲スコト(ロ)囚人懲治人又ハ被告人ニ接見ヲ求
ムル者ニ對スル許否ヲ爲シ又其接見ニ臨檢スルコト(ハ)囚人ニ對スル差
入物ノ許否ヲ爲シ及ヒ之ヲ檢閱スルコト(ニ)水火風震等非常ノ變災ニ對シ

報 國 報

○破産法ニ法典調査會ニ於テ梅博士岡野博士田部博士ノ手ニテ調査中ナリ
ト聞ク所ノ破産法ハ今ヤ既ニ脱稿シタル由ハ新聞紙ノ報道セル所ナルカ去月
二十六日本校校友會關西支部總會ハ催ニ探知講談會大阪市土佐堀青年會館ニ
於テ開會ニ於テ梅博士カ破産法ノ話ト題シ講演セラレタル中現行破産法ノ缺
點トシテ舉ケラレタル要旨ヲ摘示セシニ(第一)現行法ノ如ク破産法ハ商人ニ
適用スルニキモノトスルノ理由ナシ例ヘハ捕鯨ヲ業トセル會社又ハ探礦ヲ業
トセル會社等ノ如キハ商業ヲ爲スモノニ非サレトモ其信用ヲ重メサルヘカラ
ザルハ商人ニ讓ル所ナク其他何人ト雖モ信用ヲ重メサルヘカラザルニ至リテ
ハ同一ナルカ故ニ破産法ハ商人非商人ニ共通ノモノト爲ササルヘカラ(第二)
現行法ノ如ク破産者ニ對シ種種ノ權利ヲ剝奪スルハ酷ニ失ス蓋シ何人ト雖モ
自ラ好ミテ破産スル者ナキヲ以テ有罪破産者ニ非サル限ハ復ヒ社會ニ立テテ
活動スルコトヲ得テ成ルヘク前失敗ヲ回復セシムルコトヲ得セシメサルヘカ

第三現行法ニ如ク破産者自身ヲシテ破産ノ申立ヲ爲サシムルカ如キハ人情ニ適合セザルモノト謂ハサルヘカラス(第四現行法ニ依レテ破産ノ宣告ハ地方裁判所ニ限リ之ヲ爲スコトト爲レルモ是ハ頗ル不便ナルコトナリ以テ區裁判所ヲシテ管轄スルモノトモ現行法ニ依ル破産主任官ナル者ハ不必要ト爲ル其代リ債權者ノ代表機關トモ謂フベキ者即チ債權者ノ信任スル所ノ者ヲ選ビテ破産管財人ニ附添ハシムルコトハ頗ル必要トス外國ニモ此設アリテ佛國ニテハ「コンシロイレル」即チ監査委員又ハ監督委員トモ譯スベキ者アリテ重大ナル事件ハ總テ其意見ヲ聽クベシヘカラス然レテ現行法ニ支拂猶豫ナル制度ハ一見極メテ善良ナル制度トモ思フモ元來此制度ハ破産法カ甚チ苛酷ニ失シタル所リ多少之ヲ緩和セシメテ爲メニ設ケタルモノナリモ實際其希望ノ如ク都合ヨク行ハルル所ニ非ズ殊ニ破産法全體ノ主義トシテ破産者ヲ苛酷ニ取扱ハタルノ制度トスルニ於テハ復タ斯ル無用ノ制度ヲ設クルノ必要ナシ(第七現行法ニハ會社ノ破産ニ關スル規定殆ト之ナク殊ニ破産組合相互保險會社等

業

ノ如キ限定責任ノ會社ニ關スル規定ナシ(第八現行法ニハ相續財産ニ對スル破産ノ規定ナシ即チ被相續人カ負債ヲ殘シテ死亡シ相續人ニ於テモ辨濟ノ實力ナキ場合ニ於テ被相續人ノ遺産ニ對シテ破産ノ宣告ヲ爲スノ必要アリ隨テ此場合ニ關スル規定ナカルヘカラス(第九現行法ニハ條件附債權ニ關スル規定ナク又債權人届出順序ニ付テ異議ヲ生シタル場合ニ於テ破産手續ヲ如何ニ進行セシムヘキカ是レ亦其規定ナシ(第十協賛契約ノ成立シタル場合ニ於テ債務者カ仍ホ履行ヲ爲サザルトキハ如何ニスルベキカ其全部又ハ一部ヲ取消スモ其間ニハ新ニ債權者ヲ生スルコトアルヘク又協賛契約ヲ取消シタル結果其協賛契約ニ與リタル債權者ハ如何ナル金額ニ付テ請求ヲ爲スヘキカニ關スル規定ナク又斯ル場合ニハ頗ル複雑ナル手續ヲ必要トスルニ拘ハラズ其手續ニ關シテ規定セルモノナシ(第十一歐洲各國ニ於テハ債權者全體ヲ申出ニ因リ破産手續ヲ停止スルノ規定ヲ設ケルモ我現行法ニハ斯ル規定ナシ例ヘバ債權者カ債務者ヲシテ其事業ヲ繼續セシムルトキハ利益ヲ得ヘシトノ見込アリトスル場合ニ於テ破産手續ヲ實行シテ配當ヲ受ケルモノヲ手續ヲ進行ヲ止ムルヲ

意ヲトスル場合ノ如シ云云ト云フニ在リキ(法律經濟本廳會雜誌第十四號參
觀)○手形ノ交付ト振出地ニ約束手形ノ振出人カ其手形ヲ受取人ニ交付スルニ
方リ其交付地カ手形ニ記載セラレタル振出地ト異ナル場合ニ於ケル手形ノ效
力如何ニ付キ大津市ヲ振出地トシ東京市ニテ交付シタル手形問題ニ對シ大審
院ハ説明シテ曰ク抑手形ノ振出行爲ハ振出人カ受取人ニ手形ヲ交付スル行爲
ノミヲ指示スルニ非スシテ手形ニ其要件ヲ記載シ之ニ署名スル行爲ヲモ包含
スルモノナレハ大津市ニ於テ作成シタル手形ヲ東京市ニ於テ受取人ニ交付シ
タルトキハ其手形ノ振出行爲ハ東京市ニ於テノミ爲サレタルモノト謂フコト
ヲ得ス從テ大津市ヲ以テ振出地ト爲スモ振出ノ行爲ナキ地ヲ以テ振出地ト爲
シタリトノ批難ヲ容ルヘキモノニ非スト(大審院明治三十五年(十)第二百五號約
五年六月十四日)第一民事部判決日

生徒募集廣告

○授業開始 九月十一日

○入學試驗 九月一日、六日、十六日、二十五日ノ四回何レモ
午前九時ヨリ施行

○編入試驗(第二年級) 九月二十三日ヨリ施行

○聽講生 今般新ニ聽講生ノ制ヲ設ケ(裏面上欄參照)

入學志望者ハ試驗前日マテニ申込マルヘシ
學則ハ郵券貳錢送付アレハ即時送呈スヘシ

八 月 東京九段阪上 司法省指定 和佛法律學校

意レリトスル場合ノ如シ云云ト云フニ在リキ法律經濟本報會雜誌第十四號參觀

○手形ノ交付ト振出地 約束手形ノ振出人カ其手形ヲ受取人ニ交付スルニ方リ其交付地カ手形ニ記載セラレタル振出地ト異ナル場合ニ於ケル手形ノ效力如何ニ付キ大津市ヲ振出地トシ東京市ニテ交付シタル手形問題ニ對シ大審院ハ説明シテ曰ク抑手形ノ振出行爲ハ振出人カ受取人ニ手形ヲ交付スル行爲ノミヲ指示スルニ非スシテ手形ニ其要件ヲ記載シ之ニ署名スル行爲ヲモ包含スルモノナレハ大津市ニ於テ作成シタル手形ヲ東京市ニ於テ受取人ニ交付シタルトキハ其手形ノ振出行爲ハ東京市ニ於テノミ爲サレタルモノト謂フコトヲ得ス從テ大津市ヲ以テ振出地ト爲スモ振出ノ行爲ナキ地ヲ以テ振出地ト爲シタリトノ批難ヲ容ルヘキモノニ非スト(大審院明治三十五年(才)第二百五號約五年六月十四日第一民事部判決)

生徒募集廣告

○授業開始 九月十一日

○入學試驗 九月一日、六日、十六日、二十五日ノ四回何レモ午前九時ヨリ施行

○編入試驗(第二年級) 九月二十三日ヨリ施行

○聽講生 今般新ニ聽講生ノ制ヲ設ク(裏面上欄參照)

入學志望者ハ試驗前日マテニ申込マルヘシ
學則ハ郵券貳錢送付アレハ即時送呈スヘシ

八 月 東京九段阪上 司法省指定 和佛法律學校

聽講生規則摘要

- 本校ニテハ本科生ノ如ク各學科ヲ聽講スルコト能ハサル者又ハ各自好ム所ノ學科ニ付テ隨意聽講セシムル者ノ便ヲ圖リ新ニ聽講生規則ヲ設ケ來學ヨリ實行スルコトトセリ今其規則ノ概要ヲ左ニ掲ゲ入學ヲ許可セラルル者ハ本校ノ註考ヲ經ルコトヲ要ス但試驗ヲ行フコトアリ
- 一 入學ノ際及ヒ毎月授業料二圓ヲ納ムルコトヲ要ス
- 一 聽講生ハ聽聞シ終リタル學科ニ付キ聽講證書ヲ、試験ヲ受ケ合格シタルトキハ合格證書ヲ受クルコトヲ得
- 一 三年以上聽講生ト爲リ且本校所定ノ全學年(隨意科ヲ除ク)ニ付キ合格證書ヲ有スル者ハ本校ノ卒業證書ヲ受クルコトヲ得

明治三十二年十二月九日內務省許可
明治三十四年十一月十四日第三種郵便物認可

明治三十五年八月廿九日印刷
(定價金拾圓)

東京市京橋區南船場町二十七番地

編輯者 松田久次郎

東京市牛込區矢來町三番地

印刷者 小宮山信好

東京市芝區西ノ久保町舟町十一番地

印刷所 金子活版所

東京市麴町區富士見町六丁目十六番地

發行所 司法省 和佛法律學校

(電話番町百七十四番)